# 烏帽子会会報

2018年秋号　Vol.65

福岡大学キャンパス内　中央図書館よりA棟を望む　秋の夕暮れ


■副会長挨拶　3p
■教授就任挨拶　4p
■研究奨励賞激励賞論文抄録　9p
■烏帽子会賞受賞の言葉　26p


福岡大学医学部同窓会

# 目　　次


・副会長挨拶 …… 朔　啓二郎 3

・教授就任挨拶
教授就任のご挨拶 …… 東　登志夫 4

・総会報告
第 37 回烏帽子会総会報告 …… 北島　研／中島勇太 5

・研究奨励賞
平成 30 年度研究奨励賞選考報告 …… 岩崎昭憲 8
平成 30 年度研究奨励賞受賞者名簿 …… 8

・平成 30 年度授賞論文抄録
Macrophage-derived HMGB1 as a Pain Mediator in the Early Stage of Acute Pancreatitis in Mice: Targeting RAGE and CXCL12/CXCR4 Axis（論文）…… 入江悠平 9
MicroRNA-135a-3p as a promising biomarker and nucleic acid therapeutic agent for ovarian cancer（論文）…… 深川怜史 10
Microbiome profile of the amniotic fluid as a predictive biomarker of perinatal outcome（論文）…… 漆山大知 10
'ROS-induced cleavage of NHLRC2 by caspase-8 leads to apoptotic cell death in the HCT116 human colon cancer cell line（論文）…… 西　憲祐 11
'Exendin-4,a Glucagonlike Peptide-1 Receptor Agonist, Attenuates Breast Cancer Growth by Inhibiting NF-kB Activation（論文） 岩屋智加予 11
Behavioral defects in a DCTN1G71A transgenic mouse model of Perry syndrome（論文）…… 三嶋崇靖 12

・2019 年度研究奨励賞募集要項 …… 12

・平成 29 年度評議員会報告／在外研修援助金募集要項 …… 13

・学会報告
第 29 回日本眼瞼義眼床手術学会 …… 大慈弥裕之 14
「第 1 回　世界に輝くチーム医療講演会」を終えて …… 竹下盛重 15
第 365 回日本病理学会九州・沖縄支部スライドカンファレンス開催を終えて …… 竹下盛重 16
第 55 回日本リハビリテーション医学会学術集会を終えて …… 浅見豊子 16
第 55 回 九州外科学会開催報告 …… 前川隆文 17
第 55 回九州外科学会、第 55 回九州小児外科学会、第 54 回九州内分泌外科学会 …… 岩崎昭憲 18

・在外研修報告
留学報告 …… 山田哲平 19

・学生会員支援報告
平成 30 年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて …… 竹下盛重 21

・学生対策報告
M4 激励会 …… 大牟田陽俊 22
平成 30 年度医学科 1 年生　ケーシー白衣授与式 …… 安元佐和 22
新入生歓迎会 …… 小玉正太 24

・キャンパスだより
烏帽子会賞受賞者名簿 …… 25
全日本医歯薬卓球大会　個人戦シングルス第 3 位を通して …… 麻生大貴 26
第 57 回九州・山口大会のご報告 …… 緒方裕文 27
アーチェリー個人総合優勝のご報告 …… 柳邉崇志 28
九山準硬式野球部門準優勝までの道のり …… 橋川武史 29
九山 × 陸上競技 × 初出場 …… 小池明生 30

・訃報
故　朝長正道先生を偲んで …… 松本直樹 31
やのこへ …… 武末佳子 32
上野清司君を偲んで …… 岩重浩一 33

・平成 31 年医学部医学科入学試験の要点 …… 33
・医学部同窓会諸表／医局長・医長名簿 …… 34 ～ 36
・教育職員人事 …… 37
・編集後記 …… 37


同窓会ホームページ共通 ID、パスワード　ID：eboshikai
パスワード：fukudai1（数字）

ホームページ用二次元バーコード

副会長挨拶

# 新しい医学部としての対応

烏帽子会 副会長　朔　　啓二郎（1回生　福岡大学医学部長）

卒業生の皆さま、お元気でしょうか。医学部長の朔です。昨年12月から3期目の医学部長を拝命しています。今期最大の課題は、医学教育評価機構による「医学教育分野別評価」の受審でした。簡単にいうと、病院機能評価などと同様、国の機関から医学教育に関しての調査が、極めて厳密に実施されました。日本の評価機構は、世界医学教育連盟(WFME)から認証された機関ですから、そこから適正な医学部と認定されると、国際認証された医学部となります。

平成30年6月4日から1週間、私たち福岡大学医学部医学科は、9分野における医学部の「ありよう」についての評価を受審しました。オールドファッションな医学教育ではなく、医学部のミッション・ポリシー、コンピテンス・コンピテンシー(課題を解決するための能力や技術）を明確にして、カリキュラムの中にそれらが反映され、しかるべき医学教育が実施されているか。臨床教育においては、適正な週数やスタッフを臨床実習に配分し、実臨床での推論が正しく実施されているかなどが問われたのです。従って、この数年間、そのような評価に対応できる様々な変革を行ってきました。各分野別に、委員長、副委員長、10名程度の教員でグループを編成し、実質的な教育改革を行い今日に至りました。最終結果は来年の春頃にでるそうですが、現在の所、不適合はなく、それほど悪い評価成績ではないだろうと期待してます。スタッフ・学生が一丸となった対応が良かったと考えます。福岡大学医学部医学科は、総合大学の1学部の1学科ですが、医学教育に沿った共通教育（教養期間）の設定も必要になってきます。様々な問題を解決し、7年後の再評価に備えていきます。学内で医学教育のPDCAサイクルが適切に回っているか、それに関する内部の評価委員会も機能しなくてはいけません。同時に、学外の先生方の評価も必要で、「外部評価・問題検討委員会」を、昨年から先月までで3回開催しました。本学医学部の医学教育の現状を説明し、医学教育の在り方、カリキュラムやプログラムの作り方、地域の医療機関へ学生を派遣する際の注意点、派遣病院の意見聴取、様々な取り組みを説明し、外部委員のご意見を伺っております。卒業生の先生方にも外部委員として参画してもらっています。

学修項目を設定し、出口から入口に向かって進捗を確認していく、いわゆる「アウトカム基盤型医学教育」において、学習者評価、教育の信頼性・妥当性の検証が継続的な課題です。同窓の先生方から、あまり詰め込む医学教育はよくない、将来が期待できない、もう少しゆっくり学生時代を過ごす必要性などの助言もありますが、私たちが医学生だった頃とは全く異なったカリキュラムや実践が要求されます。昨今、医学部入学試験問題が報道で騒がれてますが、公正・公平・公明な医学教育の展開を目指します。決して手を抜かないように進んでいきたく、ご理解とご協力をお願いいたします。

教授就任挨拶

# 教授就任のご挨拶

福岡大学筑紫病院 脳神経外科 教授　東　　登志夫

東　登志夫（ひがし　としお）
教授 略歴

**学　歴／**
昭和57年３月
　久留米大学附設高等学校　卒業
昭和63年３月
　京都大学医学部　卒業
平成７年３月
　京都大学大学院医学研究科博士課程
　単位取得満期退学

**勤務歴／**

| | |
|---|---|
| 1988年　６月 | 京都大学医学部附属病院<br>脳神経外科　研修医 |
| 1989年　４月 | 天理よろづ相談所病院<br>脳神経外科　医員 |
| 1995年　４月 | 大津赤十字病院<br>脳神経外科　医員 |
| 1995年　９月 | 米国ワシントン大学<br>神経内科、博士研究員 |
| 1998年　４月 | 国立循環器病センター<br>脳神経外科　医員 |
| 2003年10月 | 社会保険小倉記念病院<br>脳神経外科　副部長 |
| 2009年10月 | 福岡大学医学部<br>脳神経外科　助教 |
| 2010年４月 | 福岡大学医学部<br>脳神経外科 講師(4条7号) |
| 2010年10月 | 福岡大学医学部<br>脳神経外科　講師 |
| 2011年10月 | 福岡大学医学部<br>脳神経外科　准教授 |
| 2013年10月 | 福岡大学病院<br>診療教授(兼任) |
| 2018年10月 | 福岡大学医学部<br>教授<br>福岡大学筑紫病院<br>脳神経外科　診療部長<br>福岡大学筑紫病院<br>脳卒中センター<br>診療部長 |

平成30年10月１日付けで、福岡大学筑紫病院教授、脳神経外科および脳卒中センター診療部長に就任いたしました。筑紫医療圏の脳卒中診療に大きな役割を担っている、福岡大学筑紫病院脳神経外科で働くことになり、身の引き締まる思いです。また、このたびは向野利寛病院長、福岡大学神経内科　坪井義夫教授のご高配により、神経内科医２名を派遣していただき、新しい体制での脳卒中診療を行ってゆくことになります。

私の専門は脳卒中の外科および脳のカテーテル治療（脳血管内治療）です。これは脳の疾患に対して、皮膚を切ったり頭蓋骨を開けたりすることなく、血管の中から病変にアプローチする新しい手術法です。脳動脈瘤コイル塞栓術や頚動脈ステント留置術が行われる様になって約20年が経過し、現在では、脳血管障害の治療において確固たる地位を築いています。以前は高齢者や合併疾患をもつ患者さんに対する低侵襲な治療のalternativeという認識でしたが、現在ではその安全性と有効性から治療の第一選択となる場合も少なくありません。近年では急性期脳主幹動脈閉塞症に対する再開通療法や、大型脳動脈瘤に対するフローダイバーター治療など、その進歩は枚挙にいとまがありません。

これからの福岡大学筑紫病院脳神経外科の大きな変化は二つあります。まず、井上　亨教授の福岡大学病院脳神経外科との連携・協力体制があり、積極的な人事交流や相互診療支援を計画しています。そのバックアップのもと、福岡大学筑紫病院の特性を活かして、脳卒中診療や地域医療への「選択と集中」を行うことが可能となるでしょう。次に、脳卒中センターへの専門性の高い内科医の配置です。包括型脳卒中センターへの神経内科医の配置による治療への効果は、科学的に証明されています。外科的な立場からだけではなく、内科的な視点を合わせ持つことで、より高度な診療を行い、患者さんにはより良い結果をもたらすでしょう。さらに、放射線科を始めとする関連他科の先生方やメディカルスタッフとの協力体制を強化し、それぞれの専門性を最大限発揮できる脳卒中センターとするよう努力したいと思います。もちろん、脳腫瘍や脊髄疾患等、脳神経外科の基本領域の診療体制の充実を図ることは言うまでもありません。現在、福岡大学脳神経外科研修プログラムは、専攻医数や連携施設の手術件数では九州最大のプログラムです。今後、福岡大学病院脳神経外科との協力のもと、全国レベルで認知される「魅力ある」診療体制および研修プログラムを築いてゆきたいと思います。若手中心の明るく元気な診療チームで、「やる気」に満ちあふれています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

総会報告

# 第 37 回烏帽子会総会報告

主幹事学年代表　北島　研（21 回生）／副幹事学年代表　中島　勇太（31 回生）

21 回生集合写真

31 回生集合写真

第 37 回福岡大学医学部同窓会・烏帽子会総会の７月７日当日に西日本豪雨が発生しました。亡くなられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に対しお見舞い申し上げます。今年の総会は、21 回生が主幹事、31 回生が副幹事としてソラリア西鉄ホテル福岡で開催されました。講演会では１の付く卒業回の先生４名にご講演頂きました。１回生福岡大学医学部長 朔啓二郎先生からは、６月に福大医学部が受審した日本医学教育評価機構による医学教育分野別認証に関して、11 回生高嶋クリニック 高嶋雅樹先生からは在宅医療に関して、21 回生東京慈恵医科大学内分泌糖尿病内科 川浪大治先生からは糖尿病の食事療法に関して、31 回生飯塚病院腎臓内科 佐々木彰先生にはこれまでの臨床研究に関して 10 分ずつ講演頂きました。講演に引き続き、今年卒業されたばかりの 41 回生で福岡大学病院１年次臨床研修医の吉村郁弘先生にもご登壇頂き、これからの福岡大学医学部について、１の付く５世代の卒業生と会場の先生との間でパネルディスカッションを行うことができました。その後の懇親会には全体で 160 名を超える参加があり、雨上がりの七夕に久しぶりの同級生、先輩、後輩の先生と再会することができました。主幹事の 21 回生は 43 名が集まり、10 年後主幹事となる副幹事の 31 回生からも今回の再会を機にまた集まりたいとの声が多数あがりました。41 回生の先生からは懇親会でお腹いっぱいに食事できた話を聞き、１回生、11 回生の先生からは懇親会後の２次会で大変盛り上がったと伺い、

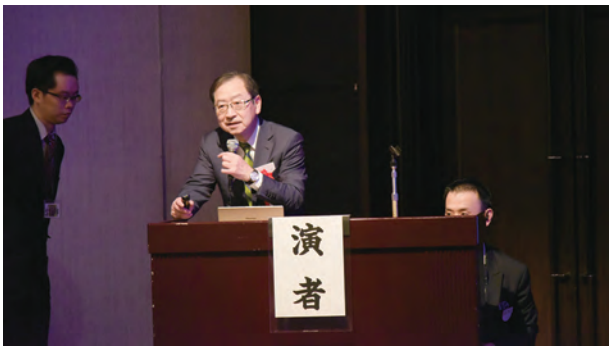
幹事一同嬉しく思い、総会の成功を感じております。今回 11 回生の先生を中心にご寄付・ご支援を賜り、また福岡大学医学部看護学科のボランティアサークルのご協力で総会会場隣に託児所を設けることができました。この場をお借りして、皆様に心より御礼申し上げます。

総会風景

講演会 31 回生　佐々木 彰先生

講演会 21 回生　川浪大治先生

講演会 11 回生　高嶋雅樹先生



講演会 1 回生　朔 啓二郎先生

ディスカッション

ディスカッション

1 回生から 41 回生 5 世代

乾杯　朔医学部長

ゲストの特別会員　岩崎宏名誉教授

ゲストの特別会員　井上亨福岡大学病院長

ゲストの特別会員　宮本新吾産科婦人科学主任教授

大慈弥裕之副学長

懇親会風景

懇親会風景

恒例の輪になって校歌斉唱

21 回生より 22 回生へ幹事引き継ぎ

万歳三唱　11 回生　三浦伸一郎先生

研究奨励賞

# 平成 30 年度　研究奨励賞選考報告

選考委員長　岩　崎　昭　憲（5 回生）

本年度より研究奨励賞選考を、5 回生の岩崎昭憲が取りまとめを行いました。

これを評価する同窓の教授は年々増加し現在 20 名が選考委員となり審査をしています。選考過程について少し紹介をいたします。昨年までに投稿され受理された論文のうち最も自信のある内容のものが研究奨励賞に応募されます。これに履歴書と、その他の論文や研究業績も付記され提出されます。評価者は応募された個々の論文を中心に内容を詳細に読み評点を記載します。それぞれの論文一覧には、同窓会事務局で調べられた Impact factor（IF）が付記されています。ただし必ずしも IF が高いもの順に選考し決められるものではありません。先ほど述べた他の業績も含めて、総合的に判断されます。またその論文が医学的、ひいては臨床に貢献されるかの観点も評価の高いポイントになっていると思います。私が選考委員に加えていただいた当初は、応募論文数も少なく、また IF があっても低い状態でした。年々原著論文も増えていきました。近年では、質の高い論文が多くなり、選考に時間を要するようになったことは、委員にとってはうれしい限りです。さて今年度の研究奨励賞には、論文での応募が 10 件、計画での応募はありませんでした。この中から、優秀賞には、33 回生の岩屋智加予先生と 35 回生の西憲祐先生が受賞されました。また優秀賞に 31 回生の漆山大知先生と 32 回生の深川怜史先生、奨励賞が 31 回生の三嶋崇靖先生、入江悠平先生の合計 6 名の受賞となりました。

いずれも優劣はつけがたいのですが前記のようなことを考慮し決まりました。表彰は 7 月の同窓会総会で皆さんに紹介され表彰状と副賞が手渡されたのはご存知のとおりです。この福岡大学医学部同窓会研究奨励賞の受賞は通過点であって、決してこれで満足することなく今後も業績を重ねて、次のステップを目指していただくよう願っています。

卒業生の皆さんは、この栄冠を手にできるように来年に向けて準備をして、どしどし応募いただければ選考委員長として嬉しい限りです。どんな論文を審査できるか楽しみにしています。

## ● 平成 30 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

| | |
|---|---|
| 福岡大学病院 救命救急センター<br>福大助教　入　江　悠　平<br>（正会員 /31 回生） | Macrophage-derived HMGB1 as a Pain Mediator in the Early Stage of Acute Pancreatitis in Mice:Targeting RAGE and CXCL12/CXCR4 Axis　（論文）/ 奨励賞 |
| 福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学<br>福大大学院生　岩　屋　智加予<br>（正会員 /33 回生） | Exendin-4,a Glucagonlike Peptide-1 Receptor Agonist,Attenuates Breast Cancer Growth by Inhibiting NF-kB Activation　（論文）/ 最優秀賞 |
| 福岡大学病院 産婦人科<br>福大助手　漆　山　大　知<br>（正会員 /31 回生） | Microbiome profile of the amniotic fluid as a predictive biomarker of perinatal outcome　（論文）/ 優秀賞 |
| 福岡大学病院 神経内科・康管理科<br>福大助教　三　嶋　崇　靖<br>（正会員 /31 回生） | Behavioral defects in a DCTN1G71A transgenic mouse model of Perry syndrome　（論文）/ 奨励賞 |
| 福岡大学医学部 耳鼻咽喉科学（細胞生物学）<br>福大大学院生　西　　憲　祐<br>（正会員 /35 回生） | ROS-induced cleavage of NHLRC2 by caspase-8 leads to apoptotic cell death in the HCT116 human colon cancer cell line　（論文）/ 最優秀賞 |
| 福岡大学病院 産婦人科<br>福大助教　深　川　怜　史<br>（正会員 /32 回生） | MicroRNA-135a-3p as a promising biomarker and nucleic acid therapeutic agent for ovarian cancer<br>（論文）/ 優秀賞 |

左から入江先生、深川先生、漆山先生、西先生、岩田先生、三嶋先生

## 平成 30 年度授賞論文抄録

# Macrophage-derived HMGB1 as a Pain Mediator in the Early Stage of Acute Pancreatitis in Mice: Targeting RAGE and CXCL12/CXCR4 Axis（論文）

福岡大学病院 救命救急センター　入　江　悠　平（31 回生）

**題：**マウス急性膵炎の発症早期における内臓痛は RAGE、CXCR4 を標的としたマクロファージ由来 HMGB1 が関与する

要旨

**<目的>**

膵臓疾患患者において膵臓痛のコントロールは重要である。High mobility group box 1（HMGB1）は急性期の全身性炎症症候群においてヒトでは血中濃度が上昇する。そこで今回、我々は急性膵炎における膵臓痛にマクロファージ（M φ）由来 HMGB1 およびその標的細胞表面のレセプターを解明することとした。

**<方法及び実施計画>**

雄性 ddY マウス（18-22g、4-5 週生）を用いて実験を行った。マウスにセルレイン 50μg/kg を腹腔内に一時間毎に計 6 回反復投与を行い、急性膵炎モデルを作成した。セルレイン最終投与から 30 分後にマウスの上腹部を刺激しその疼痛スコアの合計値を算出した。

**<結果>**

結果 1：HMGB1 中和抗体（0.1 ～ 1mg/kg）をセルレイン初回投与前に投与したところ有意に疼痛の軽減を認めた。

結果 2：M φの失活作用があるミノサイクリンを前投与することで、上腹部疼痛の有意な軽減を認めた。

結果 3：RAGE、CXCR4、TLR4 のアンタゴニストをそれぞれ前投与したところ、TLR4 を除くアンタゴニストにて有意に上腹部の疼痛は抑制された。

**<結語>**

急性膵炎の膵臓痛には M φ由来の HMGB1 が RAGE および CXCR4 を介して痛みに関与しており、治療標的となりうることが証明された。

# MicroRNA-135a-3p as a promising biomarker and nucleic acid therapeutic agent for ovarian cancer（論文）

福岡大学病院 産婦人科　深　川　怜　史（31 回生）

**【目的】**卵巣癌は婦人科領域で予後の悪い疾患であり、5 年生存率は 35% ほどである。一方で、microRNA は薬剤耐性や薬剤感受性との関連が報告されている。卵巣癌の予後を予測するバイオマーカーおよび卵巣癌に対する核酸医薬として miR-135a-3p の有用性を検討する。

**【対象と方法】**12 例の卵巣癌患者のマイクロアレイ解析を実施しその予後との関連を検討した。卵巣癌患者血液を対象に qPCR 法で発現解析を行った。miR-135a-3p の発現ベクターを作成し、腫瘍増殖抑制能を vitro および vivo で検証した。またアレイ解析を行い Target gene の検索も行なった。

**【結果】**スクリーニングにより miR-135a-3p が卵巣癌の予後不良患者で有意に低下していた。miR-135a-3p は vitro および vivo で腫瘍増殖を抑制し、薬剤感受性も改善した。また、miR-135a-3p は、BIRC、GABRA3、SPANXB1/2、PPP2R2B を介して、腫瘍増殖の制御との関連が明らかになった。

**【結論】**miR-135a-3p は卵巣癌のバイオマーカーとして有用で、核酸医薬としての可能性も示唆された。

# Microbiome profile of the amniotic fluid as a predictive biomarker of perinatal outcome（論文）

福岡大学病院 産婦人科　漆　山　大　知（31 回生）

妊娠中の子宮内感染は、一般に早産を引き起こし、児にも重大な影響を及ぼします。しかし、現在の臨床現場では、羊水の培養検査は低感度であることなどから、子宮内感染を分娩前に正確に診断することができません。そこで我々の教室では、国立成育医療研究センター研究所（秦健一郎先生）、早稲田大学（服部正平先生ら）、富山大学（齋藤滋先生）、国立病院機構佐賀病院（野見山亮先生）との共同研究を行い、次世代シークエンサーを使って羊水の細菌組成を網羅的かつ定量的に解析することによって、高い精度で子宮内感染を診断できることを明らかにし、2017 年 9 月に Scientific Reports 誌で発表しました。

分娩前に羊水中病原細菌の組成が分かれば、早期診断と最適な治療法の選択が可能となるため、この手法は今後の周産期医療を大きく変える可能性があります。また我々の教室では、本成果を元にした臨床研究も計画中です。

最後に、多大なご指導を頂きました宮本新吾主任教授、国内留学先でご指導頂きました秦健一郎先生、さらに日々忙しい臨床の中で研究にご協力頂いております産科の先生方や病棟スタッフの皆様、また共同研究でご協力頂きました先生方やスタッフの皆様、そして家族に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

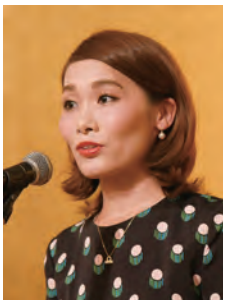
# ROS-induced cleavage of NHLRC2 by caspase-8 leads to apoptotic cell death in the HCT116 human colon cancer cell line（論文）

福岡大学医学部 耳鼻咽喉科学（細胞生物学） 西　　憲　祐（35 回生）

活性酸素種（ROS）の過剰産生による酸化ストレスは、カスパーゼ経路を介して細胞のアポトーシスを引き起こすことが知られている。しかしながら、ROS がアポトーシスを誘導する分子機構は分かっていないことが多い。そこで我々は、N 末端に酸化還元因子であるチオレドキシン様ドメインを有している NHL-repeat-containing protein 2（NHLRC2）タンパク質に注目し、この分子機構を明らかにすることとした。まず最初に、大腸癌細胞株 HCT116 細胞を酸化剤である tBHP で処理するとアポトーシスが誘発され、NHLRC2 タンパク質レベルが低下したことから、酸化ストレスによるアポトーシスと NHLRC2 タンパク質の関係を明らかにした。次に、カスパーゼ阻害剤 z-VAD-fmk により、ROS 誘発性 NHLRC2 タンパク質レベルの低下が抑制されたことから、NHLRC2 とカスパーゼ経路の関係を示した。また、NHLRC2 のチオレドキシン様ドメインがカスパーゼ-8 と相互作用し、カスパーゼ-8 が NHLRC2 タンパク質を切断することを見出した。最後に shRNA および CRISPR-Cas9 を介した NHLRC2 の喪失が、ROS 誘発アポトーシスに対する HCT116 細胞の感受性を増加させることを示した。本研究結果から、NHLRC2 のチオレドキシンドメイン様タンパク質が、アポトーシス経路で働くカスパーゼ 8 の新規のターゲットであり、NHLRC2 が ROS 誘発アポトーシスの調節に重要な役割を果たしていることを明らかにした。

# Exendin-4,a Glucagonlike Peptide-1 Receptor Agonist,Attenuates Breast Cancer Growth by Inhibiting NF-kB Activation（論文）

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科学　岩　屋　智加予（33 回生）



我が国の 2 型糖尿病患者の死因第 1 位は癌であり、種々の疫学研究において肥満や糖尿病患者では、全癌や各種癌の罹患率・死亡率が高いことが明瞭に示されている。近年、GLP-1 は膵 β 細胞以外の組織や細胞にも存在する GLP-1 受容体を介して、血糖降下作用とは独立した臓器保護作用を惹起する事が報告されている。いくつかの癌組織や癌細胞株においても GLP-1 受容体発現を認める報告があるが、その作用が癌促進的なのか抑制的なのか一定の見解を得られていない。乳癌はわが国の女性で最も多い癌の一種で、糖尿病患者では約 1.2 倍の発症率を認め、メタボリック症候群や肥満 2 型糖尿病患者との関連が注目されている。本研究では、乳癌に GLP-1 受容体が発現し、in vivo と in vitro の両系で Ex-4 の乳癌抑制作用を立証し、その作用機序として Ex-4 が NF- κ B の活性化を抑制するという新たな分子メカニズムを解明した。この発見は、乳癌の発症進展を抑制するための糖尿病治療ストラテジー確立に大きく貢献するとともに、糖尿病や肥満と乳癌という併存しやすい両疾患のミッシングリンクを突き止めるヒントにもなり得る。さらに、非糖尿病モデルを用いて行われた研究であることから、非糖尿病患者の乳癌抑制に GLP-1 受容体作動薬が貢献しうる可能性も期待できる。また、本研究は米国内分泌学会誌 Endocrinology2017 年 12 月号の Editor's choice にも選ばれた。

# Behavioral defects in a DCTN1G71A transgenic mouse model of Perry syndrome（論文）

福岡大学病院 神経内科・健康管理科　三　嶋　崇　靖（31 回生）

**【目的】**
Perry 症候群はパーキンソニズム、うつ・アパシー、原因不明の体重減少、中枢性呼吸障害をきたす常染色体優性遺伝の家族性パーキンソン病である。Perry 症候群の原因遺伝子である DCTN1 変異が発見され、現在までに 9 つの遺伝子変異（F52L、K56R、G67D、G71A、G71E、G71R、T72P、Q74P、Y78C）が報告されている。Perry 症候群は病理学的には TAR DNA-binding protein 43（TDP-43）とダイナクチン凝集体が特徴である。これまでに Perry 症候群モデルマウスの報告はなく、本研究の目的は、Perry 症候群モデルマウス作製を行うことである。

**【方法】**
Perry 症候群 G71A 変異トランスジェニックマウスを作製し、野生型と G71A 変異マウスを用い、病理学的解析および行動解析を行った。Thy-1 プロモーターを用い、トランスジェニックマウスを作製し、PCR やウエスタンブロッティング、免疫染色でダイナクチンの発現量の検討を行った。病理学的解析では TDP-43 およびダイナクチン凝集体の有無について検討した。行動解析は、オープンフィールドテスト、ロータロッドテスト、トラクションメーターを用い、マウスの自発性や協調運動、筋力について評価した。

**【結果】**
G71A 変異マウスで、TDP-43 やダイナクチン凝集体はみられなかったが、6 カ月齢変異マウスで探索行動減少を認め、16 カ月齢変異マウスでは協調運動障害がみられた。

**【結論】**
G71A 変異トランスジェニックマウスを用い、世界で初めて Perry 症候群の症状であるアパシーやパーキンソニズムの一部再現に成功した。

2019 年度　福岡大学医学部同窓会

## 研究奨励賞募集要項

**対　　象**：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
（本会会費完納を条件とする）
**研 究 課 題**：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究論文又は研究計画）
**申 請 方 法**：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）
＊参考：七隈支部長は臨床検査医学の **松永　彰** 教授
筑紫病院支部長は消化器内科の **植木 敏晴** 教授 です。
**提　出　先**：〒 814-0180　福岡市城南区七隈 7-45-1　福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353（直通）　内線 3032　Fax 092-865-9484
**締　　切：2019 年 5 月 7 日（火）**
**賞状・賞金**：奨励賞（優秀論文賞を含む）5 件以内
**発表及び表彰**：2019 年 7 月 6 日、第 38 回同窓会総会席上　　必ず出席すること
**そ　の　他**：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書くこと

**※準会員の方もご応募ください。**

# 平成 29 年度評議員会報告

秋の会報では、例年評議員会議事録を掲載していましたが、今年度は、会場（天神スカイホール）側の録音不備により議事録作成ができませんでした。報告が不正確になるといけませんので、今年度は承認事項のみ掲載させていただき評議員会報告とさせていただきます。

お陰様で本部提出の予算案は全てご承認いただきました。また今年度は役員改選の年で、髙木忠博会長が第 19 期会長に推薦されました。

◆日時　平成 30 年 4 月 28 日　16 時
◆場所　天神スカイホール 16 階
◆出席　評議員：出席 54、委任出席 42、欠席 21
　　支部長（再掲）：出席 16、欠席 4

**◇経過報告**
**◆黙祷　亡くなった先生方を悼み黙祷**
**◆会長挨拶**
**◆第 112 回医師国家試験状況説明**
**◆平成 30 年度子女入試状況説明**

**◇議題 1.　平成 29 年度収入支出決算見込　承認**

**◇議題 2.　平成 29 年度事業報告及び**
**平成 30 年度事業計画（案）　承認**

①会報の発行　②総会の開催
③支部活動援助　④研究奨励賞
⑤在外研修援助金　⑥学生対策
⑦白衣贈与　⑧国試対策費
⑨支部祝儀贈与　⑩学生行事援助
⑪学会寄付　⑫慶弔贈与
⑬グッズ作製　⑭会員名簿
⑮パニックマニュアルの発行　⑯奨学金緊急貸与
⑰縁結び
⑱保険コンサルティング紹介
⑲ホームページ

**◇議題 3.　平成 30 年度収入支出予算（案）　承認**

**◇議題 4.　第 19 期役員会長推薦　承認**
**髙木会長 8 期目**

**◇議題 5.　決算評議員会省略の件　承認**

**◇議題 6.　福岡大学医学部同窓会烏帽子会**
**第 37 回総会案内**

福岡大学医学部同窓会

# 在外研修援助金　募集要項

**①長期研修**

**対　　象**：<u>正会員、準会員</u>（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、３ヶ月以上外国に留学する者
**申請方法**：所定の申請書により留学出発３ヶ月前までに提出のこと
**提 出 先**：〒 814-0180　福岡市城南区七隈 7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
ＴＥＬ 092-865-6353（直通）　代表 092-801-1011　内線 3032
ＦＡＸ 092-865-9484
**援 助 金**：１件 20 万円を限度とし、年間５件以内
**発　　表**：本人に文書にて連絡
**そ の 他**：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事
③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事賛同し、渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

学会報告

# 第29回日本眼瞼義眼床手術学会

福岡大学医学部 形成外科学 教授　大慈弥　裕　之（3回生）

第29回日本眼瞼義眼床手術学会を、福岡大学形成外科主催の下で開催しました。日時は平成30年2月24日(土)、会場は、福岡大学病院メディカルホールです。

今回は、「高い満足度を目指す眼瞼形成手術」をテーマとし、サブテーマに「トラブルケースから学ぶ」を加えました。このテーマに沿って、教育講演「眼瞼・眼窩のエキスパート治療」、シンポジウム「眼瞼形成術におけるUnfavorable resultsと対策」、パネルディスカッション「眼瞼下垂症手術手技」を企画しました。一般演題も２４題の応募をいただきました。また、企業共催セミナーとして、「眼瞼・眼科周囲の非手術美容医療」を企画しました。現在増加の著しいヒアルロン酸注入療法やボツリヌス毒素製剤を安全・有効に使用するため、それぞれのポイントについて解説してもらいました。

本学会は、眼瞼形成や義眼床を専門にする形成外科医、眼科医、義眼士の集まりです。領域の壁を越え率直に議論することで、機能、形態ともに高い水準の医療を目指しています。

本学会の九州での開催は初めてでしたが、今回、全国から115名の専門医が集まりました。本学眼科学の内尾英一教授を始め、多くの眼科医の先生方にもご参加いただき、おかげさまで有意後な会議とすることができました。

本会の開催にあたり、ご尽力いただいた関係者、および同窓会をはじめご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

# 「第１回　世界に輝くチーム医療講演会」を終えて

福岡大学医学部 病理学 教授　竹　下　盛　重（３回生）

2018 年 3 月 26 日、福岡大学病院メディカルホールで Harvard 大学 MGH 移植外科教授河合達郎先生にご講演いただきました。テーマは“自己と非自己のはざまで - 移植医療の夢” と題して行われました。2008 年に人において腎臓、非破壊性骨髄同時移植を行い一時的に体内でキメラの状態にして最終的に免疫抑制剤を服用しない状態にすることに成功しております。この機序には血液内 Regulatory T 細胞が増加していることが判明しております。

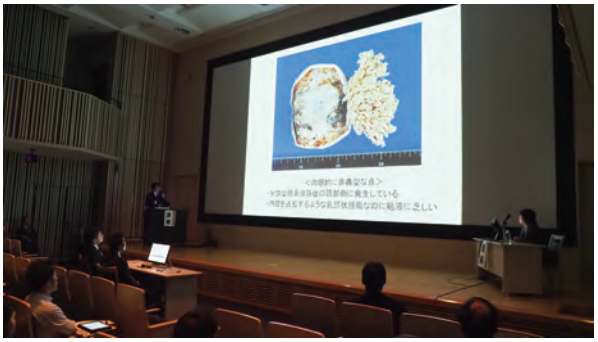
師匠である Cosimi 教授と共に米国の移植をリードし、現在米国で grant を次々に取得されている医師です。河合先生は、40 才で MGH にポストを得た後、米国医師ライセンスを取得し 2015 年に教授になられました。現在、腎臓肝臓移植等を手がけ世界のトップに立って活躍されています。今回、機会があり同窓会のご援助もいただき講演の機会を頂きました。先生は、市内で開業されています新原勇三先生や私の柔道仲間であり、小玉正太先生が Harvard 大学時代にお世話になった方であり、お呼びすることができました。聴衆の方々は、昔習った双子牛のキメラ、サルを使った実験や人への応用を説明され、驚き、感動、疑問、期待と、収拾がやや難しい状態になってしまいました。しかし、多くの方は河合先生が平易に説明されていて非常にわかりやすかったと言われておりました。参加された皆様の大きな夢が膨らんだ 1 時間でした。本講演には、九州大学生医研創始者で元移植ネットワーク会長の野本亀久雄先生、移植学会理事長の寺岡慧先生、ピッツバーグ大教授、北海道大学外科教授を歴任されました藤堂省先生等、河合先生がお世話になられた方々も多く参加されていました。

大切なことですが、最後に河合先生からこれを機会により人的な交流を深めていきましょうという言葉をいただいております。若い医師、学生の方が Harvard 大学や他の米国内大学で研修、臨床、研究ができるような関係をいただきました。また、この会開催にあたり烏帽子会、眼科林英之教授から多大なるご援助をいただきました。この講演の趣旨は福岡大学（医学部）は高邁な目標に向かい努力する学生、医師を作っていくことです。これからも世界に輝く方々をお呼びして講演会を開く予定です。

# 第365回日本病理学会九州・沖縄支部 スライドカンファレンス開催を終えて

福岡大学医学部 病理学 教授　竹　下　盛　重（3回生）

2018年9月22日(土)13時より17時30分まで、福岡大学メデイカルホールにて上記の日本病理学会地方会を行いました。歴史ある会で、第1回目は1957年11月に本学名誉教授であられました故今井 環先生が主になり立ちあげられた会であり、すでに60年が経過しております。本会は年6回開催しますが、毎年臓器疾患シリーズとして臨床と合同カンファレンスを行います。今回はその合同カンファレンスの会となり「胆膵の病理」を中心に検討会を行いました。臨床コメンテーターとして大塚 隆生 先生（九州大学臨床・腫瘍外科）、病理コメンテーターとして鬼島 宏 先生（弘前大学医学部病理生命科学講座）が来られました。九州沖縄支部の会員約150名があつまり症例提示、検討会を行い、活発な意見が交わされました。臨床医や胆膵の専門病理医の考え方や治療法等をお教えいただき、非常に充実した会となりました。また、その後18時から薬院で懇親会をおこない、ここでも意見の交換を行うことが出来ました。ご援助いただきありがとうございました。御礼申しあげます。さて、この場をお借りして病理学教室への勧誘をさせてください。現在、病理医が非常に不足した状況であり、福岡大学も例外ではありません。病理診断は治療の方向性を決めるものでやりがいのある仕事です。また、かなり時間的な融通性があり個々人の生活や趣味も楽しむことが出来ます。是非是非、生涯の仕事の1つとしてお考えください。



今、当教室で研究しています王子尭先生(中国内モンゴル地区出身)が発表しました。

# 第55回日本リハビリテーション医学会学術集会を終えて

佐賀大学医学部附属病院 リハビリテーション科 診療教授　浅　見　豊　子（7回生）

第55回日本リハビリテーション医学会学術集会を平成30年6月28日(木)～7月1日(日)、福岡国際会議場及び福岡サンパレスにて、55回目にして初の女性会長として開催致しました。福岡大学医学部同門会烏帽子会をはじめ、多くの皆様からのご支援ご協力のお蔭をもちまして、約6,400名の方々にご参加いただけた大規模学会として終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

本学会はテーマを「再生を羽ぐくむリハビリテーション医学」とし、リハビリテーション医学・医療が、世界で脚光を浴びている「再生医療」にも大きく関与していることを理解していただき、本質である「再びその人らしく生きる形を見いだすこと」の重要性を再認識していただくことを目標と致しました。約1,500の一般演題、約20の特別講演、約70の教育講演、約40のランチョン・スイーツセミナー、初めてご参加い

ただきました日本看護協会、日本集中治療学会、日本脊椎脊髄病学会をはじめとしました約30の他学会等との合同企画、8つのハンズオンセミナー、4つの男女共同参画企画におきましては、活気のある討議が行われました。また、約20名の海外講師による講演や人間国宝 陶芸家の井上萬二先生と鍋島報效会徴古館主任学芸員の富田紘先生による文化講演の会場も大盛況となりました。さらに、「TA（とってもあたたかい、チームアプローチ、Toyoko Asami）タイム」という交流会では佐賀のお酒とおつまみを片手に楽しい雰囲気の中で親睦を深めていただけたようですし、九州北部豪雨被災地支援朝倉物産展では多くの方々に被災地支援のために沢山の品をご購入いただきまして、大変嬉しく思いました。

本学会が盛会裏に終了できましたことを、ここにご報告申し上げますとともに、ご支援をいただきました福岡大学医学部同窓会烏帽子会の皆様には、あらためまして厚く御礼を申し上げます。

# 第55回 九州外科学会開催報告

福岡大学筑紫病院 外科 教授　前　川　隆　文（2回生）

この度、第55回九州外科学会を平成30年5月11日（金）12日（土）の2日間、福岡市薬院の電気ビル創生館みらいホールで開催いたしました。また、第55回九州小児外科学会ならびに第54回九州内分泌乳腺外科学会（会長：福岡大学呼吸器・乳腺内分泌・小児外科の岩崎昭憲　教授）と同時開催させていただきました。

福岡大学としての本学会の開催は、平成18年5月に本学の旧第二外科の白日高歩教授が第38回の本会を開催されて以来実に12年ぶりということになりました。

先般来、外科学は大きく様変わりして参りました。かつての拡大手術が見直され縮小手術へ、そしてほとんどの手術に鏡視下手術が導入され、さらにはロボット手術へと発展してまいりました。そしてほとんどの癌治療ガイドラインに鏡視下手術が標準治療となりつつあります。また、癌化学療法の分野でも新しい化学療法薬や分子標的薬の登場と遺伝子・分子レベルの解析により、その抗腫瘍効果は高く術前、術後の癌化学療法ガイドラインも整備され、かつては切除不能だった高度進行癌も治癒切除可能な症例も散見されるようになってきました。この様に著しく発達、進化してきた外科学の分野で九州諸氏のスキルを発表していただきました。お陰様で特別講演2題、共催講演セミナー10題、一般演題156題と多数の応募をいただき、学会当日は約390名を超える先生方にご参加いただき盛会裡に無事終了することができました。

また、学会最終日の午後からは、日本外科学会生涯教育セミナーをお世話させていただきました。今回は最新の診断技術（胃癌）と銘打って1．福岡大学筑紫病院の岩下明徳教授に「早期胃癌の臨床病理学変遷と超高分化腺癌の概念と分類」2．福岡大学筑紫病院の八尾健史教授に「早期胃癌内視鏡診断：最新の知見」そして3．大阪国際がんセンター消化

器外科副部長の大森　健先生に「食道胃接合部がんに対する腹腔鏡下手術：蛍光ナビゲーション手術～機能温存手術」のご講演をたまわり参加者全員が感銘と賞賛していただいたのが印象的でした。

以上、第 55 回九州外科学会の開催報告をいたしましたが、盛会裡に終えることが出来ましたのも福岡大学医学部同窓会をはじめ多くの関係の皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。有り難うございました。

教室員の集合写真

特別講演　群馬大学総合外科学
桑野博行教授（左）

# 第 55 回九州外科学会、第 55 回九州小児外科学会、第 54 回九州内分泌外科学会

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 教授　岩　崎　昭　憲（5 回生）

平成 30 年 5 月 11 日(金)・12 日(土)の 2 日間、福岡市の電気ビル共創館みらいホールにおきまして第 55 回九州外科学会、第 55 回九州小児外科学会、第 54 回九州内分泌外科学会を開催いたしました。三学会合同開催である本学会は、多くの科に関連する学会として位置づけられます。会場は福岡中心部である天神からのアクセスが良く、開催期間中は天候にも恵まれましたので、参加者の方々には大変喜んで頂きました。

学会内容に関しましては、160 演題を超える一般発表に加えて 2 つの特別講演、そしてランチョンセミナー（6 セミナー）、アフタヌーンセミナー（3 セミナー）、イブニングセミナー(1 セミナー)を開催し、420 名を超える先生方のご参加もあり盛会のうちに終了する事ができました。

特に、特別講演では、桑野博行先生(群馬大学大学総合外科)に「考える外科学の実践」、また渡辺俊一先生（国立がん研究センター中央病院呼吸器外科)には「肺がん手術における心嚢内血管処理のテクニック：“最後の砦”を守るために必要のコツ」という表題でご講演を頂き、とてもグローバルな内容で出席者の先生方にも好評でした。

総じて学会全体を通して、成功裡に無事終了することができ、これも多方面からのご支援とご協力の賜物と考えております。最後にはなりましたが今回の学会開催にあたり、ご寄付を頂いた福岡大学医学部同窓会に感謝いたします。

在外研修報告

# 留学報告

福岡大学医学部 再生・移植医学講座（消化器外科兼務） 山 田 哲 平（27 回生）

この度、福岡大学医学部再生・移植医学講座 小玉 正太教授、消化器外科 長谷川 傑教授のご尽力により米国よりスムーズに帰学出来ましたこと、深く感謝致しております。

私は、2016 年度の米国消化器病学会（AGA）、日本消化器病学会（JSGE）の 2 学会合同による若手研究者のための留学支援制度に採択され、2016 年 5 月から 2018 年 3 月まで米国マサチューセッツ州ボストン市内にありますハーバード大学医学部（HMS）マサチューセッツ総合病院（MGH）の外科学講座 Dr.Soldano Ferrone の研究室（Ferrone ラボ）にリサーチフェローとして留学させて頂きました。私は、消化器癌に対する新規免疫療法の開発を行いたいという思いが強く、また Ferrone ラボが MGH の臨床部門の消化器外科に密接に関係していたこともありまして同ラボを選択アプライさせて頂きました。そして、私がこれまで兵隊のように規律正しく訓練を受けた日本人外科医であること、また、博士課程での癌免疫の研究歴や癌免疫療法の臨床試験の経験があることなどを評価して頂きアクセプトを頂くことになりました。

Ferrone ラボに留学してからは、土日祝日関係なく毎日朝から夜中までたくさんの仕事を頂く事となりました。最初の 1 年間は同僚にも助けられながら試行錯誤しなんとか生き延びた感じでしたが、2 年目からは同研究室のマネージング業務、医学生教育、外科レジデント教育なども任せて頂けるようになり大変貴重な経験をすることが出来ました。

お陰様で、Ferrone ラボにて約 2 年間で行った研究内容はたくさんございますが、主なものとしましては、各種固形癌における腫瘍免疫回避機構に関する研究や、その腫瘍免疫回避機構を打開するためのキメラ抗原受容体 T 細胞（CAR Tcells）療法をはじめとした新規免疫療法の開発、複合免疫療法の開発、抗 PD-1 抗体薬を始めとした免疫チェックポイント阻害剤の効果予測に有用なバイオマーカーの探索になります。

今回の留学では、世界をリードする大国アメリカ合衆国における実際の医療現場や、豊富な資金と豊富なサンプルをもとに行われる日本と格段に規模の違う研究の現状に大きな魅力と凄まじい迫力を感じ正直、心を大きく揺さぶられました。一方で、身の危険や自分が留守の間の家族の安全に関する不安を全く感じることなく、まじめでクオリティーの高い日本人に囲まれながら仕事や研究ができる日本という母国を改めて心から愛せるようになったとも思います。一生に一度の海外での挑戦であり、私の兼ねてからの医師としての目標でもあった HMS への留学、そして、アメリカでの様々なトラブルや苦難に一緒に立ち向かい支え続けてくれた私の家族に大変感謝の気持ちでいっぱいであります。

近年、癌免疫療法の 1 つであります、抗 PD-1 抗体薬や抗 PD-L1 抗体薬、抗 CTLA-4 抗体薬などの免疫チェックポイント阻害剤が実際の臨床の現場にも登場し、同薬剤に関する研究に世界中から注目が集まっております。私もこれまでの同分野での研究経験を活かし、また、帰国直前に応募致しておりました同薬剤の効果予測に有用なバイオマーカー探索に関する研究課題が平成 30（2018）年度の科研費に採択されるという帰国早々大変ありがたいお話も頂きましたので、福岡大学医学部とハーバード大学医学部との共同研究という形で引き続き進めさせて頂こうと考えております。

また、臨床面では、これまで通り消化器癌に対する手術、化学療法、癌免疫療法を中心とした集学的治療に力を入れて診療して参りたいと考えておりますのでご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。

尚、今回の留学の際に、福岡大学医学部同窓会から在外研究援助金を頂きましたことこの場をお借り致しまして大変感謝申し上げます。毎回の同窓会からのご支援は我々同窓生にとりまして大きな、大きな支えとなっております。引き続きのご支援の程よろしくお願い致します。

チャールズリバー沿いのボストン中心部の風景。
ランニングに最適です。

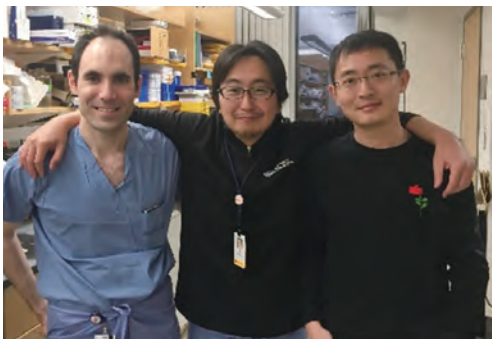
マサチューセッツ総合病院（MGH）の正面玄関。

MGH 内にある Ether dome（エーテルドーム）。1846 年に世界初のエーテル麻酔を使用した公開手術が行われた場所です。

MGH で私の所属したラボのボス、Dr. Soldano Ferrone（向かって左）とナンバー 2 の Dr.Xinhui Wang(向かって右)。

MGH 外科のトップであり、Annals of Surgery の Editor-in-Chief である Dr. Keith D. Lillemoe。

ハーバード大学医学部（HMS）外科学講座初の女性教授である Dr.Patricia K. Donahoe。1979 年にミュラー管抑制因子（MIS）を発見された先生です。
現在は MGH 小児外科のトップ。
約 2 年間、この先生が所有するとても綺麗なフロアに私のデスクと研究するスペースを頂きました。



留学中ずっと私を支え続けてくれたラボの消化器外科医チーム。1 つしかない MGH の外国人外科レジデント枠を見事に勝ち取った、ギリシャアテネ大学医学部を主席で卒業した、Dr.Theodoros Michelakos （向かって左）。
中国陸軍病院肝胆膵外科の准教授である Dr.Lei cai（向かって右）。

学生会員支援報告

# 平成30年度烏帽子会主催福岡大学医学部M4年生激励会を終えて
## －段々M4学生会になってきました－

福岡大学医学部 病理学 教授　竹　下　盛　重（3回生）

2018年8月31日（金曜日）、ホテルモントレラ・スール福岡にてM4年生93名（出席確認した方は100％出席）、M4主副担任2名、M5年生10名、烏帽子会員13名とともにM4激励会を行いました。今回はM4年生の出席が93名くらいで、留年を経験されている方の欠席が目立ちますが、あまり気にしないで先輩たちの有意義な講演をしっかり聴いていただきたいのが私達の本音です。M5年生約10名にも来ていただき、西野正嗣君からM4年生へアドバイスをいただきました。楽しい時間であったと思います。

会は、初めに本学11回生であり昨年4月より福岡大学医学部心臓・血管内科学三浦伸一郎教授より「これからの医師に求められるスキル・医療：今からできること」というタイトルで講演をいただきました。三浦伸一郎教授は当循環器内科に入局し、大学院卒業後米国クリーブランドクリニック・ラーナー研究所リサーチフェローになり数多くの仕事をし、帰国。その後、朔教授とともに当心臓・血管内科学をまとめ、医局員を増やしてきました。医師はチームを大切にし、各職種の方々を支えていくことが大切であると教えていただきました。また、M4年生が今からどのように、これからの残りの学生生活を送れば良いか、その後、医師としてどのようにすれば良いかを今から少しずつ考えて欲しい、自覚して欲しいとアドバイスいただきました。

その後は、医学部学生会副会長である大牟田陽俊君が司会進行役となり、懇親会が行われました。懇親会では髙木忠博会長のご挨拶、副担任、OBの皆様、重田正義副会長等よりアドバイスを頂きました。M4を克服してstudent doctorになる努力、十分に勉強しM5、6を充実させること、M6卒業時の国家試験100％合格、大学を卒業してからも本大学を盛り上げてほしいという内容であったと思います。M4年生にはあと2年半しか学生として自由に使える時間はないと思います。よく遊び、よく勉強し充実した大学生生活を送ってほしいと思います。最後は全員で校歌斉唱を行い、終わりとなりました。

本会は受付もM4年生が行います。また、例年M5年生が約10人来て、縦のつながりが段々出来つつあります。医学部内に「学生会」が正式にでき2年が経過しており、教育や環境改善に関して意見ができる様になりました。このM4激励会も学生が主体となって、学生が楽しめるまとまりがある会になっていけば良いなと思います。また、会後反省もかねて「M4語ろう会」を行っています。今回は、松永彰教授、和田秀一教授が参加され、医学生と話していただきました。この会も医学部の若手医師が来て、学生とじっくり話していただければよりよい会になるなと思っています。医師は、学生を知る、また、医局勧誘の機会にもなり有意義と思います。この会にも医師の参加を求めます。最後に、留年された学生の欠席が目立ちます。長い目で見て、友人を作る良い機会ですし、何か指針を与えてくれます。是非気軽に参加してください。散会後は事故がないように各自気をつけていただきたいと保護者として思います。

学生よ！もっとエンターテイメントを！

学生対策報告

# M4 激励会

大牟田　陽　俊（M４）

こんにちは。今年度 M4 激励会にて司会を務めさせていただきました、福岡大学医学部医学科学生会副会長の大牟田陽俊（おおむたようしゅん）です。今年度の激励会は、8 月 31 日にホテルモントレラ・スール福岡にて催されました。

会の最初に、本学医学部を卒業され、心臓・血管内科学講座の主任教授を務め、大いに活躍されている三浦伸一郎先生にご講演をしていただきました。三浦先生の講義の中で、先生の留学の話をお聞きし知見を広げる大切さや挑戦する大切さを知ることができました。また、M5、6 の実習の充実を図ることにより在学生のレベルアップを考える先生の気持ちを知ることができたと同時に、来年度の実習がとても楽しみになりました。

また、烏帽子会会長の髙木先生をはじめ、副会長の重田先生、烏帽子会会員の先生方、各班の担任の先生方、5 年生の先輩方から激励のメッセージをいただきました。その言葉すべてが私たちに期待しており、誇らしい気持ちで CBT のみならず医師国家試験の合格を学年全体で到達したいと思うことができました。1 人も欠けることなく全員合格を達成することが先生たちに返す最大の恩返しだと思いました。

最後になりましたが、激励会開催におきましてご尽力いただきました烏帽子会の諸先生方、学生側と連絡を取っていただいた竹下先生、司会進行の際に多大なご協力をいただいた北島先生に学生を代表して心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

# 平成 30 年度医学科 1 年生　ケーシー白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授　安　元　佐　和（7 回生）

H30 年 4 月に福岡大学医学部医学科に入学しました新入生は、7 月に模擬患者との医療面接を経験し、夏休みが明けて 9 月 3 日から、福岡大学病院と筑紫病院で、看護・BSL 実習を体験いたしました。医学科では、臨床実習のユニフォームをケーシー白衣と黒のスラックスに統一しています。同窓会のご厚意により、名前が刺繍されたお揃いのケーシーを 1 年生全員に寄贈していただきました。平成30年9月

3 日、看護・BSL 実習開始前に、同窓生の朔医学部長、林教授、三浦教授、小玉教授にご出席頂き、第 1 学年への白衣授与式を執り行いました。その後、1 年生は、新しいケーシー白衣と聴診器を身につけて、福岡大学病院の看護師長に導かれ、初めての病院実習をスタートしました。実習の間は、緊張の連続だったとは思いますが、病棟の患者さんとの面談、看護業務のシャドーイング、病院内の多職種へのインタビュー、5 年生の臨床実習の 1 日体験などを行いました。実習後には、これから臨床実習までに身につけるべき能力や、自分が持っている良医の資質などについてグループ討論を行い発表しました。また、自己の目標とふりかえりをポートフォリオにまとめましたので、下記にその一部を掲載します。これから医学生として知識・技術・態度の全てにおいて成長してくれることを期待しています。

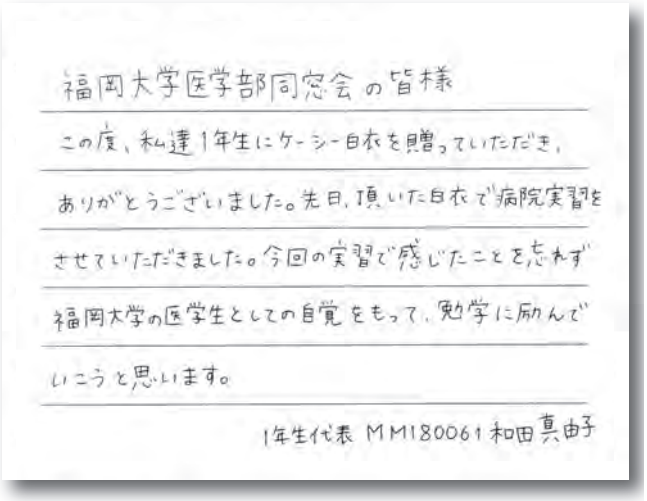
同窓会の皆様のご支援に心よりお礼申し上げます。

**H 30 年度　M 1 看護・BSL 実習**

**中庭さやかさんのポートフォリオ抜粋**

**5. 今回の実習で学んだことを今後どのように活かすか。**

今回の実習では、「仕事」というものを初めて体験し、目の当たりにした。終始業務におわれ、休む暇もなく、次から次へと頭をフル回転させて効率よく仕事をこなしていた。今までの勉強は休憩時間もあり、自分で好きな時に休憩をとることができたが、仕事となるとそうではないのだと思った。その集中力や、頭の回転速度などは、今のうちから身に着けておくべきだと思った。低学年のうちは実習も少なく、座学が多いが、今のうちからそのような仕事をこなす能力は身につけられるなと思った。またコミュニケーションに関しては、報告・連絡・相談などミスを減らすためにできることはしっかりすべきだと思った。今でも連絡や相談が不十分で、友人間で誤解を招いたり、ミスがあったりするので、相手がわかるかどうかという立場に立って発言すべきだと思う。またそれ以外にも表情や言葉遣いに気を付けようと思う。相手の表情や態度から考えていることをできるだけ読み取り、相手のしてほしいことに気付けるような人になりたい。また自分も気を付け、相手に誤解を与えたり、話しにくいという印象を与えたりしないような態度や表情をとれるようになろうと思う。コミュニケーションというある意味もっとも重要な面に関しての実習は今のうちからできると思うし、今学ぶべきことだと思うので、これから友人や先輩後輩、先生方とのコミュニケーションを通じて学んでいこうと思う。



福岡大学医学部同窓会の皆様

この度、私達1年生にケーシー白衣を贈っていただき、ありがとうございました。先日、頂いた白衣で病院実習をさせていただきました。今回の実習で感じたことを忘れず福岡大学の医学生としての自覚をもって、勉学に励んでいこうと思います。

1年生代表 MM180061 和田真由子

# 新入生歓迎会

福岡大学医学部 再生･移植医学 教授　小　玉　正　太（13 回生）

今年も、第一部として西医体委員、医学祭実行委員、九山委員からなる実行委員会が主催の歓迎会を主導し、第二部として同窓会主催の歓迎会を開催しました。

今年は第一部・第二部ともに同じ会場にて進行される予定であったために、会場への誘導や第二部への移行で懸念される時間的なロスはありませんでした。しかしながら、新入生の授業課程で当日は実習と重なり、集合時間に間に合わず第一部が開催出来ない状況になりました。この点については、来年に向けて運営委員が改善を検討中であります。

第二部は新入生に在学生 20 名クラス担任教員 9 名理事監事 14 名を加え、総勢 153 名による祝宴となりました。

初めに、広報担当理事よりスライドを使っての同窓会についての説明があり、その後担任、教員の先生方より歓迎の言葉をいただき、OB・OG の言葉、同窓の先輩でもある朔医学部長より福岡大学医学部が目指しているビジョンについてのお話、恒例の T シャツ贈与（通称烏帽 T と言われているらしい）と続き、最後は全員 T シャツ着用で校歌斉唱となりました。

新入生の皆様には、今後 6 年間有意義な学生生活を送って欲しいと強く願っています。

スライドを使っての同窓会についての説明。皆真剣に聞いています。

恒例の輪になって校歌斉唱

**烏帽子会の主な事業**

| | |
|---|---|
| ①会報の発行 | ⑩学生行事援助 |
| ②総会の開催 | ⑪学会寄付 |
| ③支部活動援助 | ⑫慶弔贈与 |
| ④研究奨励賞 | ⑬グッズ作製 |
| ⑤在外研修援助 | ⑭会員名簿発行 |
| ⑥学生対策 | ⑮パニックマニュアル発行 |
| ⑦白衣贈与 | ⑯奨学金貸与 |
| ⑧国試対策 | ⑰縁結び |
| ⑨支部総会援助 | ⑱保険コンサルティング |

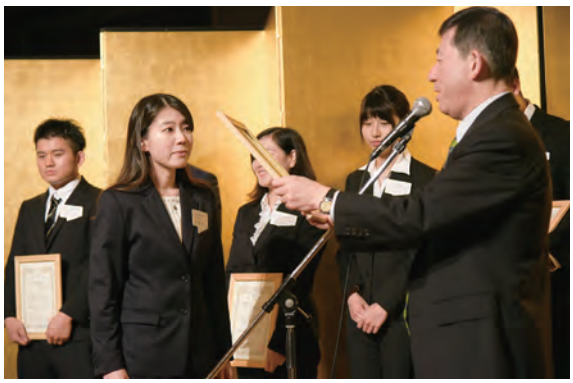
キャンパスだより

## 《烏帽子会賞受賞者一覧》

| | 学年 | 愛好会名 | 受　賞　者 | 受　賞　対　象 |
|---|---|---|---|---|
| 個人 | 5 年 | 卓球愛好会 | 麻生　大貴 | 第 77 回西日本医歯薬学生卓球大会 個人戦ダブルス優勝 |
| 個人 | 5 年 | 卓球愛好会 | 麻生　大貴 | 平成二十九年度全日本医歯薬学生卓球大会 個人戦シングルス第 3 位 |
| 個人 | 2 年 | 英語研究会 | 衛藤　響子 | JIMSA Speech Contest2017 審査員特別賞、 1 位 |
| 個人 | 4 年 | 柔道愛好会 | 緒方　裕文 | 第 57 回九州山口･医科学生体育大会 男子個人中量級優勝 |
| 個人 | 4 年 | ｱｰﾁｪﾘｰ愛好会 | 柳邉　崇志 | 第 11 回西日本医科学生アーチェリー競技大会 男子個人総合第 1 位 |
| 個人 | 3 年 | | 小池　明生 | 第 57 回九州山口･医科学生体育大会 男子 1500M・ 800M 第一位 |
| 団体 | | ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ愛好会 | | 第 69 回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会準優勝 |
| 団体 | | 準硬式野球 | | 第 57 回九州山口･医科学生体育大会 準優勝 |
| 団体 | | 柔道愛好会 | | 第 57 回九州山口･医科学生体育大会 男子団体準優勝 |

女子バスケット愛好会表彰

バスケット元顧問 OBOG の先生方より祝福



英語研究会衛藤さん表彰

英語研究会 OG の先生より祝福

# 全日本医歯薬卓球大会
# 個人戦シングルス第３位を通して

福岡大学医学部 卓球愛好会　麻　生　大　貴（M５）

この度は、栄誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。東京医科歯科大学主管のもと、全日本医歯薬卓球大会において個人戦シングルスの部で第３位となりましたのでご報告させて頂きます。

本大会の参加資格は医・歯・薬学部に所属する学生で、西日本医歯薬学生卓球大会、東日本医歯薬学生卓球大会の結果により出場が決まります。普段関わることがない東日本の選手から多くの刺激を得ることができました。個人戦ダブルスの部では、西日本大会の優勝の流れからそのまま優勝を目指しましたが、ベスト８となり反省点が残る結果となりました。この結果を次に繋げていきたいです。

普段の練習では、メリハリを持って取り組むことを意識するようにしています。あくまで、医学部での勉強が主であり、合間の時間をどう活かすかが大事になってくるので、少ない練習時間の中で、よりよい結果を出せるように工夫をしています。

最後に、これまで多くのご支援を頂きましたOB・OGの先生方、卓球部の発展に貢献して下さいました顧問の先生、戦術やメンタル面で多くのことを指導して下さったコーチ、練習を共にし、会場で応援をしてくれた部員、全ての方々の存在が今大会の成績に繋がっております。ありがとうございます。

卓球愛好会麻生君表彰

# 第 57 回九州・山口大会のご報告

福岡大学医学部 柔道愛好会　緒　方　裕　文（M４）

まず初めに、栄誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。この度、第 57 回九州・山口大会医科学生体育大会男子柔道部門において団体戦準優勝、個人戦中量級で優勝いたしましたのでご報告させて頂きます。

柔道部は過去この大会において団体戦優勝、個人戦も各階級優勝していた時代もあったと聞き、上位入賞を目指して部員一同練習に励んできました。団体戦では途中勝敗の分からない試合もありましたが選手一人一人が最後まで諦めずに試合に臨んだので準優勝という成績を収めることができたと思っています。また私自身も個人戦優勝を目標にしていたので今回の優勝は練習の成果を発揮できたと感じており、大変嬉しく思っています。

また、今大会は産業医科大学と福岡大学が合同で主幹を行いました。大会を運営するというのは初めての経験で、何から始めるのかも全く分かりませんでしたが福岡柔道連盟の先生方、柔道部 OB の先生方、産業医科大学幹部の方達のご協力のもと開催することが出来ました。自分にとって、大会責任者として大会を運営したというのは大変貴重な経験になりました。この経験を今後の部活動や学生生活に活かせたらと思います。

最後になりますが今回このような結果を収めることができたのは、多大な支援をして頂いた OB の先生方、日々の練習で指導してくださったコーチの方々、共に練習し切磋琢磨してきた部員達、全ての方々のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。

柔道愛好会表彰

柔道愛好会 OB の先生方より祝福

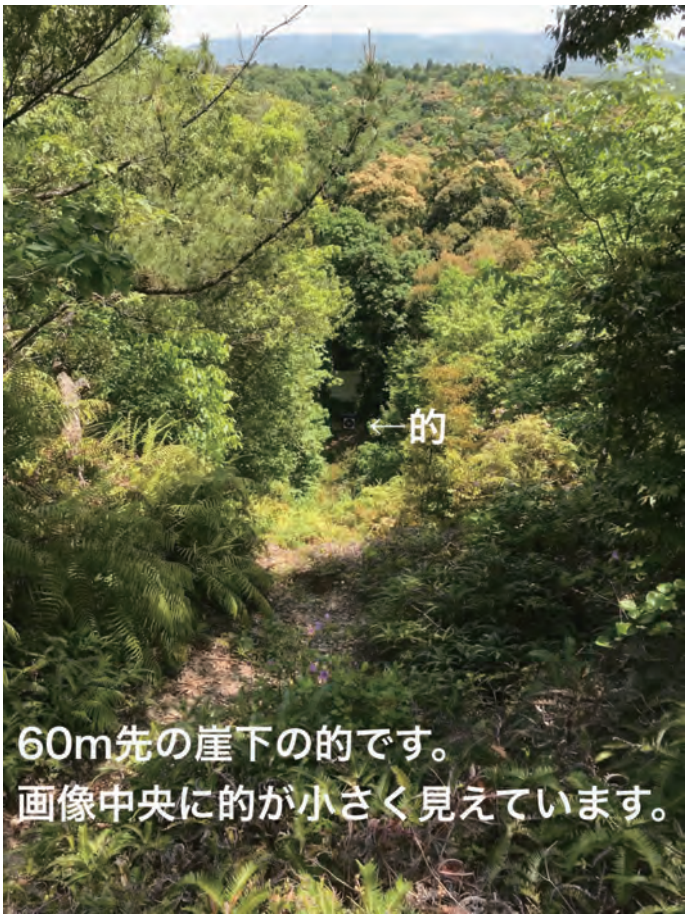
# アーチェリー個人総合優勝のご報告

福岡大学医学部 アーチェリー愛好会　柳　邉　崇　志（M４）

５月に行われました第 11 回西日本医科学生アーチェリー競技大会において、個人総合優勝・50m 部門一位・フィールド部門（山の中での競技）一位を獲得することが出来ましたのでご報告させていただきます。７月の烏帽子会総会におきましては、温かい言葉をおかけ頂いたこと、これからの大会に向けた激励のお言葉いただけましたこと、日頃より様々応援・サポートしていただいていることと合わせ、改めて先輩先生方には感謝してやまれません。本当にありがとうございます。

今回の大会は愛知県で行われました。初日は 50m・30m の距離を計 72 本、２日目は山の中での競技です。山の中での競技は、平地で行われる競技と異なり、一つ一つの的の距離・位置が異なり、難しいものでは崖の下にある 60m 先の的を狙うものもあります。要求される技術は当然高くなります。また、それと同時に 3kg 近い弓を片手で扱いながら、朝９時から夕方まで山を上り下りしながらの競技ですので、体力も必要とされます。

嬉しいことでもありますが、後輩たちの上達する姿を見ていると、入賞へのプレッシャーは大会ごとに大きくなっています。先輩として、後輩たちが乗り越えるべき壁として立っていられるのも時間の問題かとは思いますが、いましばらくは頑張りたいと思います。



アーチェリー愛好会柳邉君表彰

アーチェリー愛好会顧問、OB の先生方より祝福

# 九山準硬式野球部門準優勝までの道のり

福岡大学医学部 準硬式野球愛好会 橋 川 武 史（M４）

2018年４月下旬に北九州にて第57回九州・山口医科学生体育大会が開催され、全員野球で挑んだ結果、準優勝をいただきました。この様に、烏帽子会総会におきまして表彰していただけることはとても光栄でありますし、又、日頃より応援・サポートを頂いていることに心より感謝申し上げます。

今年の九山は準優勝という結果でしたが、それまでの道のりは簡単なものではありませんでした。2017年９月から自分が主将になるまでの約二年間、公式戦の勝利がなかった為です。主将に就任してからは勝てるチームを作りたいという強い思いで、日々猛練習を重ね、秋のリーグ戦では２勝２敗１分と着実に力がついてきているという実感が湧いてきました。今振り返るとかなりの練習量でしたので、チームメイトは勉強との両立は大変だったと思いますが、しっかりとついてきてくれました。そのようなつらい時期を乗り越えての結果でしたので一緒に戦ってきた部の仲間と分かち合える喜びはひとしおでした。それと同時に、優勝できなかった悔しさやこのチームはまだまだ強くならなければならないという気持ちもありました。来年こそは新たな主将の下、悲願の優勝を勝ち取りたいと思います

最後になりましたが、今自分たちがこうして野球を続けていられるのは多くの方々の支えがあったからこそだと思っています。烏帽子会の皆様をはじめ、野球部OB会の皆様、藤沢監督、関係者の皆様、野球部を代表致しましてお礼申し上げます。これからも練習に励んで参りますのでご指導ご鞭撻のほど今後とも宜しくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

準硬式野球愛好会表彰

準硬式野球愛好会OBの先生方より祝福

# 九山 × 陸上競技 × 初出場

福岡大学医学部医学科３年　小　池　明　生

この度、九州・山口医科学生体育大会、いわゆる九山に出場し、陸上競技男子 800M･1500M の部で第一等を獲得したので、出場するまでの過程を含めて報告いたします。

そもそも、九山に陸上競技で出場したということに疑問を持たれる方も多いのではないかと思います。福大の医学部には陸上部が存在しないからです。そのため、一番苦労したことは九山に「出場」することでした。

陸上競技部門についての知識を一切持っていなかった私は、事務課や友人に聞いてまわり、九山には部活ごとに主幹となって運営する大学が決められていて、その大学に連絡を取ることが出場への第一歩であることを知ります。今年度の陸上競技部門の担当は鹿児島大学だったのですが、担当者の連絡先を知らないため、九大の知人→九大医学部の方→九大医学部陸上部主将→鹿児島大学の担当者という遠回しな方法で繋いでいただきました。合計四人にほぼ同じことを説明するという単純で退屈な作業は、ものぐさな私にとって 10km 走ることより骨が折れました。

その後、無事に出場することが確定し、ホテルの予約や大会記念 T シャツの申し込みを行ったのですが、ツアー会社や T シャツ販売店より、送付された名簿に 1 人の名前しか書かれていないので確認してほしいといった旨の連絡を頂き、上記四人に行ったのと同じように回答させていただきました。自分は説明責任から逃れられないのだと感じました。

様々な出来事があったものの、大会本番では目標としていた二冠を達成し、誰も写真を撮ってくれない表彰台に二回も上がることができました。

今回の出場までの過程を含む九山での出来事は貴重な体験となりました。出場までを支援して下さった方々、また正式な部活ではない陸上競技部門での烏帽子会賞受賞を認めて下さった同窓会の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

陸上　小池君表彰

## 訃　報

| | | |
|---|---|---|
| 正会員 | 井上隆人先生 | 平成30年10月24日ご逝去（2回生） |
| 正会員 | 卜部克彦先生 | 平成30年5月4日ご逝去（5回生） |
| 正会員 | 永山一成先生 | 平成22年9月3日ご逝去（8回生） |
| 正会員 | 勝谷裕子先生 | 平成30年8月4日ご逝去（11回生） |
| 正会員 | 山本浩一先生 | 平成30年7月4日ご逝去（12回生） |
| 特別会員 | 朝長正道先生 | 平成30年6月23日ご逝去 |
| 特別会員 | 前川知之先生 | 平成29年12月10日ご逝去 |

# 故 朝長正道 先生を偲んで

脳神経外科同門会長　松　本　直　樹（3回生）

朝長正道先生は昭和48年、福岡大学病院設立と同時に初代脳神経外科教授に就任されました。当時は脳神経外科の黎明期であり、多くの他大学の先生方が恩師の手術を見学に来られていました。冷静沈着な手術手技と、白い糸付き綿で囲まれた術野には品性を感じるほどであり、先生は我々、脳外科一門の正にレジェンドでした。

先生のモットーは臨床に学ぶことであり、脳外科の早朝カンファレンスは部外者にとって近寄りがたい厳しい臨床に対する精進の場でした。先生が常に指摘したのは結果ではなく、そのゲダンケンガング、思考過程でした。門弟に対する叱責は「真っ赤な鬼」のようで大変怖かった。しかし、素直に反省できたのは「口調がソフトで穏やかだったから」だけではなく、若い医局員たちと機会があれば、自ら酔っぱらうまで一緒に酒を酌み交し、最後は先生も私達も、皆、裸んぼになって騒いでいた。その温かい人間性と懐の深さを誰もが知っていたからです。

昭和54年、49歳の若さで福岡大学病院院長に抜擢され、福大筑紫病院設立、救急救命センター設立、公益財団法人臨床研究奨励基金設立、等々、多くの事業の先頭に立ちご尽力され、福大医学部、病院のために走り続けて来られました。

平成12年、大学を退任された後、小生の病院にも最高顧問としても毎月、元気に来訪され、昼食をご相伴するたびに「卒業生達こそ、仲良くがんばってくれんとな。」等、いつも福大医学部、病院のことを心配してくださいました。

平成17年、右被殻出血発症後も、あっという間に軽快され、平成23年、自宅で心肺停止となられた折も、奥様の心マッサージ、自ら設立した福大救急救命センター及び、循環器内科のお蔭で一命を取り止め、社会復帰がとても早く、まさに鉄人のごとくでありました。ところが、平成29年8月、すい臓癌、肝臓内多発転移のため、闘病生活に入られてしまいました。9月9日、米寿のお祝いは時間の制限もあり、福大卒業の愛弟子とその家族だけのささやかな宴となりました。その日、弟子たちの前で先生は闘病に対する毅然とした決意を語られました。

本年3月、脳外科同門会会誌に米寿の宴に関し「有難う。嬉しかった。本当に有難う。」と書き残され、その御気使いに愛弟子たちは安堵し、心温まる思いでした。

緩和医療のため福大病院に入院され、徐々に衰弱されているとお聞きし5月12日、覚悟して病室をお訪ねしました。意識は清明、頭脳は明晰のままであるが故に、大変きつそうでつらそうでした。病状に関してお互いに触れることなく20分が経過し、先生は横になられ眼を閉じ、静かに「松本。わしを殺してくれんか。」と問われ，答えに窮し「そうして差し上げたいですが、今は違法行為になります。」と答え、「このきつさはどうしたらいいんや。」と聞かれ、「耐えてください。私もいつかはその様になると思いますから。」と冷静を装い、冷たい返事をしてしまいました。涙が出そうになり取り乱すのを恐れ、温かい言葉もお掛けできなかった私をどうかお許しください。「先生、きつかったでしょう。お疲れ様でした。」

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

# やのこへ

社会医療法人 大成会 福岡記念病院 眼科　武　末　佳　子（11 回生）

昭和 62 年レディスコンパの追いコンで

平成 30 年 8 月 4 日、やのこが逝った。なにも言わず独りで逝ってしまった。

彼女の訃報を聞いたのは、葬儀が終わった一時間後。なんで??

‘やのこ’　我々はそう呼んでいた旧姓矢野（勝谷）裕子は、1982 年福岡大学医学部に入学し、我々と出会った。

明治学園卒業の「ごきげんよう」組。笑顔のすてきなやのこ。ふくよかな体格、肝っ玉母さんのような迫力。同級 118 名中 15 名の女性の中でも存在感があったやのこ。学生時代は、１年時の長崎旅行をはじめ、よく学び、よく遊んだ。卒業旅行はオーストラリアへ。でも待望の Gold Coast では 100 数年ぶりの大雨に見舞われた。笑っちゃったね。

卒業後は福大の麻酔科に入局。

皆それぞれの部署で忙しさに紛れながらも、次に我々を驚かせたのは、出産の朗報。誰にも告げず、粛々と我が子を産んだというある種の衝撃。やのこの覚悟に驚きつつも、実にやのこらしいと、妙に感心したことは鮮明に覚えている。

お互い、つかず離れずの幾歳月。福岡東医療センターで多忙を極めていると聞き、その後福岡山王病院に移ったと聞いていた。

平成 29 年 4 月。山王病院を訪れた待ち時間に、ふと思いついてやのこに連絡したあの日。「病気療養中」との思いがけない返事に驚愕。まるで人ごとのように淡々と自分のことを話すやのこ。どう考えてもやばいでしょ！ それって。平成 28 年年末に判明した大腸がん。もはや造影剤も通らないほどの狭窄、こりゃダメだと思ったって、そんな平気な顔して言わないでよ！ 肝臓にも肺にも転移あり。肝臓がくせ者でね、って。Chemo で縮小して、それからどうするか。

こうして、やのことわたしの chemo 友達の新たなステージが始まった。一緒に行ったウィッグ試着。彼女は増毛でいくわ、と毅然とし、ペディキュアしてサンダル履いて、今までのエステの費用を思えばこっちが良い! と豪語していた。

お子さんの運動会には絶対行くと、息子のデザインが採用された運動会の T シャツを自慢するやのこ。遠くから眺めた運動会。

そして、平成 29 年年末、シーホークホテルでのランチがやのこと最後に過ごした時間。

7 月の烏帽子会総会前に交わした最後のメールでは新たな治療に臨むと希望を託し、そして・・・フッと、突然にいなくなってしまった。やのこ! ずるいよ! 潔ぎよすぎない?

でも　がんばったね、いっぱい心配したけれど決してあきらめなかった。

そして最期まで生き続けたね、やのこ。

もう、がんばらなくて良いよ。

その笑顔で、やのこらしい、私たちの大好きなその笑顔で、ゆっくりみんなをみていてね。

ありがとう、やのこ、私たちと出会ってくれて、ありがとう。

いま、あなたが、安らかならんことを…。

享年 56 歳。

国試の打ち上げ。この４人で卒業旅行へ

やのことの最期の写真
（2017 年７月）

# 上野清司君を偲んで

福西会南病院 整形外科　岩　重　浩　一（８回生）

上野君との出会いはクラブ勧誘説明会のあとのテニスコートでした。

入部希望でコートに行くとボールを打っているのを見て「あれっ!! 何処かで見た人がいるなあ」と思いました。それもそのはず上野君とは学籍番号が隣同士なのでそれまで何度も顔を合わせていたのでした。

それから僕らの付き合い（テニスの歴史）が始まりました。

彼は小倉高校時代に当時高校 No.1 の柳川商業の福井烈選手と対戦した強者で、彼には全く歯が立ちませんでした。ただ、彼のおかげで僕らはテニスが上手くなったと思います。彼は少し難聴気味だったのか少しズレた処があり、一緒に麻雀していて先輩が「上野君はどこの高校出身だったかね?」と尋ねられて「はい、毎日テニス頑張ってます」と答えてみんな唖然としたのを憶えています。また彼はヒドイ音痴なのに全く気付かず、よく人前でビートルズの「イエスタディ」を披露して笑いを誘いました。

そんなちょっとズレてた彼でしたがとても後輩の面倒見がよく、卒業してからも毎回テニス部の新歓コンパ・追い出しコンパに参加して学生たちが彼の周りに大勢集まって話を一生懸命聞いていたのを憶えています。後輩達から慕われ、信頼されていました。

実家を継いで開業してからは忙しくてなかなか会う機会が減っていたのですが、毎年恒例の県医師会のテニス大会では顔を合わせて旧交を深めていました。最近はテニスもしてなくて２年前のクラス会（77会）では痩せた感じでお酒も控えているようでした。今考えるとあの頃から病魔と闘っていたのでしょう。

上野君の訃報を聞いてまだまだやりたいことがあっただろうと思いますが、今はゆっくり休んで下さい。

心よりご冥福をお祈りいたします。

## 平成 31 年 医学部医学科入学試験の要点

| | A 方式推薦<br>(H30.3 月卒業者<br>H31.3 月卒見込者) | ※地域枠推薦 | 大学入試センター試験<br>利用入試 | 一般入試系統別<br>一次選考 | センター試験利用入試二次選考<br>一般入試系統別二次選考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 出願期間 | 平成 30 年 11 月 1 日(木)<br>～11 月 8 日(木) | 平成 30 年 11 月 1 日(木)<br>～11 月 8 日(木) | 平成 31 年 1 月 5 日(土)<br>～18 日(金) | 平成 31 年 1 月 5 日(土)<br>～18 日(金) | |
| 試 験 日 | 平成 30 年 11 月 25 日(日) | 平成 30 年 11 月 25 日(日) | 大学入試センター試験<br>平成 31 年 1 月 19 日(土)・20 日(日) | 平成 31 年 2 月 2 日(土) | 平成 30 年 2 月 14 日(木) |
| 試験科目 | 外国語(英語)、数学、面接及び調査書 | 外国語(英語)、数学、面接及び調査書 | 外国語、国語、数学、理科（2 科目） | 外国語、数学、理科(2 科目)、小論文 | 面接・調査書 |
| 募集人員 | 20 人 | 10 人 | 10 人 | 70 人 | |
| 合格発表 | 平成 30 年 12 月 5 日(水) | 平成 30 年 12 月 5 日(水) | 一次合格：<br>平成 31 年 2 月 7 日(木) | 平成 31 年 2 月 7 日(木) | 平成 31 年 2 月 22 日(金) |
| | 入学申込金締切／平成 30 年 12 月 17 日(月)<br>入学手続き締切／平成 31 年 3 月 8 日(金) | | | | **追加合格**<br>平成31年2月22日の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から3月31日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。<br>入学申込金締切<br>(平成31年3月1日)<br>入学手続き締切<br>(平成31年3月8日) |

※地域枠推薦該当者
①九州（沖縄を含む）・山口各県内に所在する高等学校または中等教育学校の出身者
②出願時において、本人または保護者（親など）が九州（沖縄を含む）・山口各県内に居住する者
③高等学校または中等教育学校を平成 29 年 3 月以降に卒業した者および平成 31 年 3 月卒業見込の者
④高等学校または中等教育学校を平成 26 年 3 月以降に卒業した者で、大学、短期大学（高等専門学校を含む）、大学校、専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る）に在学中の者および平成 29 年 3 月以降に卒業した者

# 福岡大学医学部同窓会諸表

## 平成 29 年度収入支出決算

| 区分 | 科目 | 29 予算 | 29 決算 | 29 決算予算比較 | 29 決算内訳 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収入 | 繰越金 | 12,222,629 | 12,222,629 | 0 | |
| | 会費収入 | 29,851,000 | 31,047,170 | ▲ 1,196,170 | 入会費：5,417,720　学年会費：5,008,500<br>年会費：20,488,050　準年会費：132,900 |
| | 手数料収入 | 100,000 | 66,729 | 33,271 | 契約件数５人 |
| | 雑収入 | 20,000 | 14 | 19,986 | 預金利子 |
| | 預り金収入 | 40,000 | 54,230 | ▲ 14,230 | |
| | 仮入金 | 0 | | 0 | |
| | 合計 | 42,233,629 | 43,390,772 | ▲ 1,157,143 | |
| 支出 | 給与 | 3,330,000 | 2,473,205 | 856,795 | パート２名 |
| | 旅費 | 2,100,000 | 2,658,310 | ▲ 558,310 | 役員旅費：499,530　評議員会：591,460<br>私大連絡会：434,220　通勤旅費：234,700　その他：898,400 |
| | 事務用品費 | 400,000 | 247,956 | 152,044 | |
| | 印刷費 | 2,970,500 | 2,411,921 | 558,579 | 会報：2,301,761　封筒：72,900　その他：37,260 |
| | 通信運搬費 | 1,899,600 | 1,274,382 | 625,218 | 電信電話：87,833　会報：638,006　切手葉書：114,618<br>その他：433,925 |
| | 設備工事費 | 300,000 | 0 | 300,000 | 維持契約 |
| | 什器備品費 | 240,000 | 230,364 | 9,636 | プロジェクター |
| | 事業費 | 22,084,000 | 16,228,442 | 5,855,558 | 総会費：523,168　研究奨励賞：1,804,290<br>在外研究援助金：1,500,000　学生会員支援：4,307,741<br>国試対策費：1,070,930　学生行事援助費：584,079<br>支部活動費：2,715,434　支部祝儀：200,000<br>M1M5 白衣贈与：1,492,540　慶弔費：165,280<br>学会寄付：1,710,000　縁結び支援費：129,600<br>保険コンサルティング：25,380 |
| | 会議費 | 2,000,000 | 1,176,169 | 823,831 | 理事会、会長懇話会：484,221　評議員会：498,132<br>各種会議他：193,816 |
| | 公租公課 | 71,000 | 71,000 | 0 | 福岡県民税：21,000　福岡市民税：50,000 |
| | 雑費 | 2,032,400 | 1,384,878 | 647,522 | 税理士報酬：32,400　渉外費：76,200　業務用グッズ：8,056<br>その他：1,268,222 |
| | 預り金支出 | 40,000 | 50,090 | ▲ 10,090 | 給与源泉徴収税 |
| | 引当金積立 | 2,000,000 | 0 | 2,000,000 | |
| | 借入金返却 | 0 | | 0 | |
| | 予備費 | 2,766,129 | 0 | 2,766,129 | |
| | 合計 | 42,233,629 | 28,206,717 | 14,026,912 | |
| | 収支差引 | 0 | 15,184,055 | △ 15,184,055 | |

## 平成 29 年度残金処分

| | |
|---|---|
| 残金額（収支差引額） | 15,184,055 円 |
| 奨学金積立金積立 | 0 円 |
| 刊行物積立金積立 | 3,000,000 円 |
| 事業積立金積立 | 0 円 |
| 次年度繰越 | 12,184,055 円 |

## 平成 29 年度特別会計決算

| | 事業積立金 | 奨学金積立金 | 刊行物積立金 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 前年度より繰越 | 88,881,523 | 12,884,419 | 5,783,363 | 107,549,305 |
| 本年度増加額 | 195,000 | 352,500 | 2,000,000 | 2,547,500 |
| 本年度受取利息 | 4,265 | | | 4,265 |
| 本年度減少額 | ▲ 324 | | | ▲ 324 |
| 本年度未決算額 | 89,080,464 | 13,236,919 | 7,783,363 | 110,100,746 |

## 平成 29 年度事業報告と平成 30 年度事業計画

| 年度 / 項目 | 平成 29 年度 事業計画 | 平成 29 年度 事業報告 | 平成 30 年度 事業計画 | |
|---|---|---|---|---|
| | 予算（A） | 実績（B） | 予算（C） | C－A |
| ① 会報の発行 | 3,610,100 | 2,939,767 | 3,633,100 | 23,000 |
| ② 総会の開催 | 400,000 | 523,168 | 400,000 | 0 |
| ③ 支部活動援助 | 1,900,000 | 2,715,434 | 1,900,000 | 0 |
| ④ 研究奨励賞 | 2,000,000 | 1,804,290 | 2,000,000 | 0 |
| ⑤ 在外研究援助 | 2,000,000 | 1,500,000 | 2,000,000 | 0 |
| ⑥ 学生対策 | 5,400,000 | 4,307,741 | 5,000,000 | ▲ 400,000 |
| ⑦ 白衣贈与 | 2,000,000 | 1,492,540 | 2,000,000 | 0 |
| ⑧ 国試対策費 | 2,000,000 | 1,070,930 | 2,000,000 | 0 |
| ⑨ 支部祝儀贈与 | 230,000 | 200,000 | 230,000 | 0 |
| ⑩ 学生行事援助 | 800,000 | 584,079 | 800,000 | 0 |
| ⑪ 学会寄付 | 3,000,000 | 1,710,000 | 3,000,000 | 0 |
| ⑫ 慶弔贈与 | 300,000 | 165,280 | 300,000 | 0 |
| ⑬ グッズ作製 | 2,000,000 | 0 | 2,000,000 | 0 |
| ⑭ 会員名簿発行 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑮ パニックマニュアル発行 | 0 | 0 | 3,000,000 | 3,000,000 |
| ⑯ 奨学金貸与 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑰ 縁結び | 1,000,000 | 129,600 | 1,000,000 | 0 |
| ⑱ 保険コンサルティング | 30,000 | 25,380 | 30,000 | 0 |
| ⑲ ホームページ | 24,000 | 0 | 24,000 | 0 |
| 合計 | 26,694,100 | 19,168,209 | 29,317,100 | 2,623,000 |

## 平成 30 年度収入支出予算

| 区分 | 科目 | 29 予算 | 30 予算 | 30 年度予算摘要 | 29 予算-30 予算 |
|---|---|---|---|---|---|
| 収入 | 繰越金 | 12,222,629 | 12,184,055 | | ▲ 38,574 |
| | 会費収入 | 29,851,000 | 30,361,000 | 入会費：5,1890,000　学年会費：4,722,000<br>年会費：20,310,000　準年会費：140,000 | 510,000 |
| | 保険コンサルティング広告料 | 100,000 | 250,000 | 保険コンサルティング紹介手数料 | 150,000 |
| | 雑収入 | 20,000 | 20,000 | グッズ売上ほか | 0 |
| | 預り金収入 | 40,000 | 40,000 | 給与源泉徴収税 | 0 |
| | 積立金繰入 | 0 | 0 | | 0 |
| | 仮受金 | 0 | 0 | | 0 |
| | 合計 | 42,233,629 | 42,855,055 | | 621,426 |
| 支出 | 給与 | 3,330,000 | 3,330,000 | パート２名 | 0 |
| | 旅費 | 2,100,000 | 2,300,000 | 役員旅費：600,000　評議員会：500,000　私大連絡会：500,000<br>通勤費：170,000　その他：530,000 | 200000 |
| | 事務用品費 | 400,000 | 400,000 | | 0 |
| | 印刷費 | 2,970,500 | 2,993,500 | 会報：封筒：2,633,500　封筒：200,000　その他：160,000 | 23,000 |
| | 通信運搬費 | 1,899,600 | 1,909,800 | 電信電話：100,000　会報：1,009,800　切手葉書代：30,000<br>その他：500,000 | 10,200 |
| | 設備工事費 | 300,000 | 300,000 | 維持契約費 | 0 |
| | 什器備品費 | 240,000 | 240,000 | | 0 |
| | 事業費 | 22,084,000 | 21,684,000 | 総会費：400,000　研究奨励賞：2,000,000　在外研修援助金：2,000,000<br>学生対策費：5,000,000　国試対策費：2,000,000<br>学生行事援助費：80,000　支部活動費：1,900,000<br>支部祝儀：230,000　BSL 用白衣贈与費：2,000,000　慶弔費：300,000<br>学会寄付：3,000,000　縁結び：1,000,000<br>保険コンサルティング：30,000　WEB サイトサーバー費：24,000 事業予備費：1,000,000 | ▲ 400,000 |
| | 会議費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 理事会、会長懇話会：700,000　評議員会：500,000<br>各種委員会：300,000　その他：500,000 | 0 |
| | 公租公課 | 71,000 | 71,000 | 福岡市県民税 | 0 |
| | 雑費 | 2,032,400 | 2,032,400 | 税理士報酬：32,400　渉外費：500,000　慶弔費：500,000<br>その他：1,000,000 | 0 |
| | 預り金支出 | 40,000 | 40,000 | 給与源泉徴収税 | 0 |
| | 引当金積立 | 2,000,000 | 4,000,000 | | 2,000,000 |
| | 協賛金支出 | 0 | 0 | | 0 |
| | 借入金返却 | | | | 0 |
| | 予備費 | 2,766,129 | 1,554,355 | | ▲ 1,211,774 |
| | 合計 | 42,233,629 | 42,855,055 | | 621,426 |
| | 収支差引 | 0 | 0 | | 0 |

# 医局長・医長名簿 （○内の数字は福大医学部卒業回）

（平成 30 年 10 月現在）

| | 医局長 | 病棟医長 | 外来医長 |
|---|---|---|---|
| ［ 福岡大学病院 ］ | | | |
| 腫瘍・血液・感染症内科 | 田中 俊裕 ⑰ | 佐々木 秀法 | 茂木 愛 ㉕ |
| 内分泌・糖尿病内科 | 田邉 真紀人 | 濵之上 暢也 ㉜ | 元永 綾子 ㉗ |
| 循環器内科 | 小川 正浩 ⑭ | 有村 忠聴 ㉘ | 岩田 敦 ⑳ |
| 消化器内科 | 横山 圭二 ㉒ | 船越 禎広 ㉓ | 石橋 英樹 ㉓ |
| 呼吸器内科 | 串間 尚子 | 青山 崇 | 松本 武格 ㉒ |
| 腎臓・膠原病内科 | 安野 哲彦 ㉔ | 浜内 亜希 ㉚ | 永室 尚子 |
| 血液浄化療法センター | | 升谷 耕介 | |
| 神経内科・健康管理科 | 合馬 慎二 ㉓ | 藤岡 伸助 ㉖ | 柳本 祥三郎 ㉜ |
| 精神神経科 | 衛藤 暢明 | 原田 康平 | 飯田 仁志 ㉜ |
| 〃（ディケア） | | | 永野 健太 |
| 小児科 | 野村 優子 ㉒ | 佐々木 聡子 ㉚ | 井原 由紀子 |
| 消化器外科 | 吉田 陽一郎 | 塩飽 洋生 ㉖ | 加藤 大祐 ㉔ |
| 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 | 濱 武大 輔 ⑳ | 早稲田 龍一 | 今村 奈緒子 |
| 整形外科 | 木下 浩一 ㉖ | 木山 貴彦 ㉔ | 田中 祥継 ㉖ |
| 形成外科 | 森田 愛 | 稲本 和也 ㉟ | 鈴木 翔太郎 |
| 脳神経外科 | 野中 将 ⑯ | 高原 正樹 ㉝ | 森下 登史 |
| 心臓血管外科 | 峰松 紀年 | 林田 好生 ⑳ | 松村 仁 |
| 皮膚科 | 柴山 慶継 ㉗ | 山口 和記 | 内藤 玲子 |
| 泌尿器科 | 入江 慎一郎 ⑰ | 松崎 洋吏 ㉗ | 古屋 隆三郎 ㉓ |
| 産婦人科 | 宮原 大輔 ⑳ | 倉員 正光 （産科） | 讃井 絢子 ㉔ |
| 〃 | | 南 星旭 ㉘（婦人科） | |
| 眼科 | 佐伯 有祐 | 岡村 寛能 | 高橋 理恵 |
| 耳鼻咽喉科 | 大西 克樹 ㉕ | 竹内 寅之進 | 妻鳥 敬一郎 ㉜ |
| 放射線科 | 浦川 博史 ⑮ | 赤井 智春 ㉗ | 野々熊 真也 ㉔ |
| 麻酔科 | 岩下 耕平 | 廣田 一紀 | 柴田 志保 ㉖ |
| 歯科口腔外科 | 瀬戸 美夏 | 近藤 誠二 | 喜多 涼介 |
| 病理部 | 濵田 義浩 ⑭ | | |
| 臨床検査部 | 大久保 久美子 | | |
| 輸血部 | 熊川 みどり | | |
| 救命救急センター | 川野 恭雅 ㉚ | 入江 悠平 ㉛ | |
| 総合周産期母子医療センター | | 大田 栄治 ⑲（新生児部門） | |
| | | 稲富 香織 （3階南病棟） | |
| 総合診療部 | 堀端 謙 | 坂中 博昭 ㉝ | 増井 信太 ㉙ |
| 東洋医学診療部 | 久保田 正樹 ⑭ | | |
| 薬剤部 | | | |
| 臨床研究支援センター | | | |
| 卒後臨床研修センター | | | |
| ［ 福岡大学筑紫病院 ］ | | | |
| 筑紫病院（総医局長） | 平野 公一 ㉑ | （外科） | |
| 循環器内科 | 白井 和之 ⑧ | 岡村 圭祐 ㉔ | 山本 智彦 ㉚ |
| 内分泌・糖尿病内科 | 工藤 忠睦 ㉓ | 阿部 一朗 | 小林 邦久 |
| 呼吸器内科 | ※赤木 隆紀 ㉑ | 宮崎 浩行 | 竹田 悟志 ㉙ |
| 消化器内科 | 野間 栄次郎 ⑱ | 金光 高雄 | 別府 剛志 ㉙ |
| 小児科 | 吉兼 由佳子 ⑲ | 堤 信 ㉔ | 鶴澤 礼実 |
| 外科 | 平野 公一 ㉑ | 槙 研二 ㉔ | 平野 公一 ㉑ |
| 整形外科 | 秋吉 祐一郎 | 南川 智彦 | 蓑川 創 ㉚ |
| 脳神経外科 | 坂本 王哉 ㉘ | 新居 浩平 ㉔ | 井上 律郎 ㉙ |
| 泌尿器科 | 平 浩志 ⑮ | 平 浩志 ⑮ | 宮島 茂郎 ㉒ |
| 眼科 | 中間 崇仁 | 中間 崇仁 | 藤田 秀昭 |
| 耳鼻いんこう科 | 佐藤 晋 ㉚ | 杉山 喜一 ㉛ | 佐藤 晋 ㉚ |
| 放射線科 | 山本 良太郎 ㉒ | | |
| 救急科 | 岡村 圭祐 ㉔ | | |
| 麻酔科 | 平田 和彦 ⑫ | | |
| 病理部 | 原岡 誠司 | | |

（筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長）

## 教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）［平成 30.4.2 ～ 30.10.1］

| 区分 | 所属 | 資格 | 氏名 | 発令日 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 退職 | 筑紫病院消化器内科 | 講師 | 矢野 豊㉔ | 30.6.30 | |
| | 眼科 | 講師（4条7項） | 有田 直子⑮ | 30.6.30 | |
| | 産科婦人科学 | 准教授 | 城田 京子 | 30.7.31 | |
| | 筑紫脳神経外科 | 准教授 | 堤 正則 | 30.9.3 | 死亡退職(9/3ご逝去) |
| | 筑紫脳神経外科 | 講師（4条7項） | 江藤 歩 | 30.9.3 | |
| 昇格 | 筑紫脳神経外科 | 教授 | 東 登志夫 | 30.10.1 | |
| | 脳神経外科学 | 准教授 | 安部 洋⑳ | 30.10.1 | |
| | リハビリテーション部 | 准教授 | 鎌田 聡 | 30.10.1 | |
| | 消化器外科学 | 講師（4条7項） | 加藤 大祐㉔ | 30.10.1 | |
| | 消化器外科学 | 講師（4条7項） | 塩飽 洋生㉖ | 30.10.1 | |
| | 泌尿器科学 | 講師（4条7項） | 古屋 隆三郎㉓ | 30.10.1 | |
| | 歯科口腔外科学 | 講師（4条7項） | 吉野 綾 | 30.10.1 | |
| | 神経内科・健康管理科 | 講師（4条7項） | 合馬 慎二㉓ | 30.10.1 | |
| | 筑紫脳神経外科 | 講師（4条7項） | 津川 潤 | 30.10.1 | |

## 事務局からのご連絡

◆会報を広く情報伝達の場に･･･医学部、病院、同窓会、会員、それぞれの人が、それぞれの相手に蟠りなく伝えて欲しいと願っています。教室、部門紹介など、何時でも何度でも何回でも投稿下さい。広く、躍動する情報テーブルになればと願っています。

◆会報表紙の写真の提供お願いいたします。

## 編集後記

2018 年秋号の烏帽子会報をお届けします。7月に第 37 回烏帽子会総会が開催されました。今回の総会担当幹事は 21 回生と 31 回生でしたが、1回生と 11 回生、41 回生を含め1のつく学年が初めて5期にわたり参加され、烏帽子会にまた新しい歴史が加わりました。また、会報に報告があるように多くの同窓生が主催される学会も多くなってきております。最近は一部で「不適切」医学部入学が問題とされているようですが、我が烏帽子会は今まで以上に同窓生で力をあわせて、学生教育、医療を充実しさらに発展していく事が重要と考えます。会報作成にあたり、関係部署の方々にご協力いただき誠にありがとうございました。今後も皆様のご支援とご協力よろしくお願いします。

文責　岩隈　昭夫　（8回生 広報担当　福岡大学）

第38回

# 福岡大学 医学祭を終えて

本年度11月2日～11月4日に行なわれました第38回福岡大学医学祭についてご報告致します。前実行委員長の花岡さんから今年の3月にバトンを受け、本年度の実行委員会は発足しました。伝統ある医学祭をよりよいものとするために、実行委員と共に多くの協議を重ね、先生や先輩方に協力を仰ぎながら、様々な企画にチャレンジしました。医学祭ならではの医学展示の企画においては、医療体験コーナーの設置や七隈祭・雅祭合同のスタンプラリーを実施し、テレビ・ラジオでの告知、またホームページやSNSを使い医学祭の情報を発信することで例年の約8倍の800名を超える成果を得ました。講演会では学内外から本年度の学祭のテーマである「睡眠」に精通した著明な先生方をお招きし、実際に福岡大学医学生の睡眠に関するデータを使いながら身近にある睡眠の在り方について講演して頂きました。それぞれの企画を通して、今年度のテーマである「現代の睡眠について考える」ことの重要性を多くの人に伝えることができたのではないかと感じております。実行委員会で医学祭を運営していく中で、様々な困難なこともありましたが、それらを協力して乗り越えていき、学年の結束はより強いものとなったと思いますし、この学年にとって素晴らしい思い出となり、大きな財産となったのではないかと思います。

最後になりましたが、今年度医学祭を開催するにあたって、大変お忙しい中、御指導・御協力を賜りました朔医学部長をはじめ、学生部長の小玉先生、烏帽子会の先生方、企画運営に際して多くのことを教えて頂いた笠先生、医学部事務課の皆様、何度も助言を頂いた医学祭実行委員会の先輩方、医学祭関係者の皆様に心より御礼申し上げます。これをもちまして、私たちの活動は終了し来年度の医学祭実行委員に引き継いで参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。以上で本年度医学祭のご報告を終了致します。

第38回福岡大学医学部医学祭実行委員会
実行委員長　M4　橋川　武史

告　知

福岡大学医学部同窓会 **第38回 烏帽子会総会**

開催日 2019年7月6日(土) 5:00PM～9:00PM　会場 ソラリア西鉄ホテルにて


烏帽子会会報第65号

発行日　平成30年11月20日
発行人　髙木　忠博
編集人　小玉　正太

発行所　〒814-0180　福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話：092-865-6353（直通）
092-801-1011（代表）　内線［3032］
FAX：092-865-9484
E-mail：eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所　ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話：092-711-7741
FAX：092-711-7901